平成 25 年 度

八代市議会建設環境委員会記録

審 査 ・ 調 査 案 件

1. 6月定例会付託案件 …………… 1

平成 25 年 6 月 18 日 (火曜日)

建設環境委員会会議録

平成25年6月18日 火曜日

午前10時02分開議

午後 0時59分開議（実時間167分）

○本日の会議に付した案件

1. 議案第74号・平成25年度八代市一般会計補正予算・第3号（関係分）
1. 議案第75号・平成25年度八代市公共下水道事業特別会計補正予算・第1号
1. 議案第68号・市道路線の廃止について
1. 議案第69号・市道路線の認定について
1. 議案第70号・契約の締結について（八代市公共下水道八代市水処理センターの建設工事委託）
1. 所管事務調査
 - ・都市計画・建設工事に関する諸問題の調査
 - ・生活環境に関する諸問題の調査（微小粒子状物質PM2.5への対応について）
（ごみ非常事態宣言後の状況について）
（八代市環境センター建設事業の進捗状況について）
（入札・契約制度の改正について）

○本日の会議に出席した者

委員長 田方芳信君
副委員長 堀口晃君
委員 大倉裕一君
委員 田中安君
委員 中村和美君
委員 橋本幸一君
委員 増田一喜君
委員 松浦輝幸君
議長 古嶋津義君

※欠席委員 君

○委員外議員出席者中発言の許可を得た者

君

○説明員等委員（議）員外出席者

建設部長 船藏満彦君
建設部総括審議員兼次長 井本康君
首席審議員兼土木建設課長 下川哲夫君
街路公園課長 間賢一君
理事兼下水道総務課長 松本貞喜君
下水道総務課経営係長 古田和弘君
土木管理課長 鶴山信一君
下水道建設課長 楠本研二君
下水道建設課副主幹兼水処理センター場長 松野光洋君
環境部長 宮川正則君
環境課長 宮田径君
環境課環境保全係長 中川順一君
ごみ対策課長 山口剛君
環境センター建設課長 小橋孝男君
環境センター建設課主査 古閑迫修君
総務部長 木本博明君
契約検査課長 國岡雄幸君
契約検査課長補佐 西竜一君

○記録担当書記 松本和美君

（午前10時02分 開会）

○委員長（田方芳信君） おはようございます。（「おはようございます」と呼ぶ者あり）

それでは、定刻となり定足数に達しましたので、ただいまから建設環境委員会を開会いたします。

本日の委員会に付します案件は、さきに配付

してあります付託表のとおりであります。

◎議案第74号・平成25年度八代市一般会計補正予算・第3号（関係分）

○委員長（田方芳信君） 最初に予算議案の審査に入ります。

それでは、議案第74号・平成25年度八代市一般会計補正予算・第3号中、当委員会関係分を議題とし、説明を求めます。

○建設部長（船藏満彦君） 委員長。

○委員長（田方芳信君） 船藏建設部長。

○建設部長（船藏満彦君） おはようございます。（「おはようございます」と呼ぶ者あり）建設部長の船藏でございます。

本委員会に付託されました、議案第74号平成25年度八代市一般会計補正予算・第3号中、当建設部所管分につきまして、井本総括審議員兼次長並びに関係課長より説明させますので、よろしく申し上げます。

○建設部総括審議員兼次長（井本 康君） 委員長。

○委員長（田方芳信君） 井本建設部総括審議員兼次長。

○建設部総括審議員兼次長（井本 康君） おはようございます。（「おはようございます」と呼ぶ者あり）建設部総括審議員兼次長の井本でございます。着座にて説明させていただきます。

それでは、補正予算書の2ページをお開きください。

第1表・歳入歳出予算補正、歳出でございます。

款7・土木費では、補正前の額54億7940万6000円に1億7890万円を増額補正し、56億5830万6000円といたしております。

内訳といたしまして、項2・道路橋梁費で、補正前の額17億1281万7000円に61

70万円を増額補正し、補正後の予算を17億7451万7000円、また、次の項5・都市計画費では、補正前の額30億5894万2000円に1億1720万円を増額補正し、補正後の予算を31億7614万2000円とするものでございます。

今回の補正の理由といたしましては、社会資本総合整備事業における25年度分の国からの交付金の内示額が、市の予算措置額を上回って内示されましたことから、増額補正をお願いいたします。

節ごとに御説明いたします。9ページをお願いいたします。9ページ一番下の欄でございます。

款7・土木費、項2・道路橋梁費、目3・道路新設改良費では6120万円の増額補正をお願いするもので、節13・委託料では、10ページの説明欄、東西アクセス線改良事業のうちの新牟田西牟田線改良事業の測量設計に1000万円を計上し、竜西幹1号線改良事業におきまして、JRとの委託料が確定いたしましたことから、273万1000円を減額いたしましたので、726万9000円を追加計上するものでございます。節15・工事請負費3393万1000円は、竜西幹1号線改良事業で減額いたしました委託料273万1000円を工事請負費に計上いたしましたので、さらに1174万8000円を追加、また、南北アクセス線改良事業の北吉扇ノ江線改良事業における道路改良工事に1945万2000円を追加計上するものでございます。

10ページをお願いいたします。

節17・公有財産購入費2000万円は、鏡町有佐地区の野津橋小路長溝線におきます用地取得費を追加するものでございます。なお、南北アクセス線改良事業の北吉扇ノ江線は、当初平成26年度を予定いたしておりましたが、今回の補正で1年前倒しし、平成25年度内の完

了を目指すものでございます。

次に、目4・橋梁維持費では50万円を補正するもので、橋梁長寿命化修繕事業における大平2号橋補修工事に追加計上するものでございます。

次に、項5・都市計画費、目2・街路事業におきまして1億1720万円を増額補正をお願いするものでございます。内訳といたしまして、説明欄、南部幹線道路整備事業に1億720万円、北部幹線道路整備事業に1000万円を追加計上するものでございます。節ごとに御説明いたします。節13・委託料120万円は、南部幹線南川橋梁上部工の現場技術管理業務委託料でございます。節15・工事請負費1億3400万円は、南部幹線南川橋梁上部工建設工事に5000万円、南部幹線道路改築工事に5600万円を、また、北部幹線道路改築及び舗装工事に2800万円を追加計上するものでございます。なお、南部幹線南川橋梁上部工建設工事につきましては、4径間を一体として施工いたしますことから、工期が約1年6カ月を要しますため、11ページの債務負担行為で翌年度以降にわたるものについての前年度末までの支出額及び当該年度以降の支出予定額等に関する調書にお示ししておりますとおり、平成26年度に3億3850万円を限度といたします債務負担行為の追加補正をお願いし、25年、26年の2カ年の事業として施工を予定いたしております。節17・公有財産購入費1800万円の減額は、北部幹線事業区間におきまして、用地について難航しておりましたことから、平成25年度に執行を予定しておりましたところ、本年3月中に地権者の合意が得られ、契約が完了いたしましたことから、当該用地費相当額を減額するものでございます。なお、同額を節15の工事請負費に計上いたしまして、本年12月中の完了を目指すものでございます。

次に、お手元にお配りしております資料の説明をさせていただきます。表紙右肩に黒枠で資料と記したA4判のものでございます。今回、補正対象の事業の位置図、それから平面図を資料として添付いたしております。平面図におきまして赤色で塗っております部分が、今回、追加補正にて施工いたします箇所でございます。例えば、1ページは竜西幹1号線の位置図でございます。2ページが、同じく竜西幹1号線の平面図でございます。この平面図におきまして赤色で着色した部分が、追加補正をお願いして施工いたします部分ということでございます。以下、ほかの箇所も同様に記しております。

以上でございます。御審議をよろしくお願いいたします。

○委員長（田方芳信君） それでは、以上の部分について質疑を行います。

○委員（大倉裕一君） よかですか。

○委員長（田方芳信君） 大倉委員。

○委員（大倉裕一君） 今回、道路改良が何件か出ているわけですがけれども、まず、資料をです、これだけ準備していただいたということは、非常にわかりやすくよかったかなというふうに思っております。

その中で、資料に基づいて、竜西幹1号線ですかね、これはJRさん、——新八代駅の井上町側の踏切の部分新しくつくられる分だと思いうんですけども、この工事の概要をもう少し詳しくお話をいただきたいということと、議会で承認をされた後ですね、大体、いつぐらいにこの工事を予定されているのか、その予定あたりもお聞かせいただければというふうに思います。

○委員長（田方芳信君） 下川課長。

○首席審議員兼土木建設課長（下川哲夫君） 確認いたします。道路の構造的な概要ということでよろしゅうございますでしょうか。

○委員（大倉裕一君） はい。

○首席審議員兼土木建設課長（下川哲夫君）

はい。踏切部分につきましては、2車線道路で踏切をつくる予定でございます。また、片歩道——片側だけ歩道をつけて、2車線片歩道という構造でいたします。取り付けの道路分も同じような構造でございます。

J Rの委託の工事につきましては、現在、協定書を結ぶ準備をいたしております。整い次第、J Rさんのほうで施工していただくというふうに考えております。工期の予定としましては、2月末を、一応目途に管理協定、——協定を結びたいというふうに思っております。

以上でございます。

○委員長（田方芳信君） よろしいですか。

○委員（大倉裕一君） はい。

○委員長（田方芳信君） ほかにありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）ほかになければ……。

○委員（大倉裕一君） あ、済みません。

○委員長（田方芳信君） 大倉委員。

○委員（大倉裕一君） 南川橋梁の、今回、債務負担行為も26年度分は追加補正出しているんですけども、もう少し詳しく御説明をいただきたいと思うんですが。

○街路公園課長（関 賢一君） 委員長。

○委員長（田方芳信君） 関課長。

○街路公園課長（関 賢一君） はい。街路公園課の関でございます。

お手元の資料の8ページをお開きいただけますでしょうか。（「はい」と呼ぶ者あり）その平面図と橋梁部の断面図がございますけども、今回、お願いしております上部工、およそ3億8000万円の工事になりまして、今回の補正で1年目5000万円、2年目を3億3000万円ということでお願いしておりますわけですけども、ここの橋梁部の断面を見てくださいと、今年度、——昨年度までに橋梁部下部工の工事が終わりました、一部A1、P1の

ですね、現場打ちの床板橋を完了させております。残り、今年度、今度は当初予算におきまして、P5とA2間ですね、同じく現場打ちの床板橋を予定いたしておりますわけですけども、今回、新たに補正で参りましたので、いよいよ本体ですね、桁の上部工にかかることが可能となったということで、この桁の上部工につきましては、P1からP5の区間でございます。合わせて4径間でございます。

この部分を工事いたしますのに、1年6カ月かかります。当然、桁の工場製作から始まるわけでございますけども、そういうことで、1年目は今から準備いたしまして、多分、次ですね、議会で、——定例会におきまして、契約の案件をですね、お願いしたいと予定いたしておりますので、それから換算しまして、どうしても年度内に終わらないようなことで、2カ年の工事になるということで、工法的なものも説明したほうがよろしゅうございますでしょうか。

○委員（大倉裕一君） いや。

○委員長（田方芳信君） どうでしょうか。

○委員（大倉裕一君） はい。

○委員長（田方芳信君） 大倉委員。

○委員（大倉裕一君） 工法的なものはされなくていい。構いません。

○街路公園課長（関 賢一君） はい。じゃあ、以上の説明でよろしゅうございますでしょうか。

○委員長（田方芳信君） ほかにありませんか。

○委員（大倉裕一君） ほかにいいですか。

○委員長（田方芳信君） はい。大倉委員。

○委員（大倉裕一君） はい。済みません。土木の道路工事といいますと、よくこう地権者の方がいらっちゃって、地権者との交渉が思ったように進みませんでしたということで、繰越明許という取り扱いになることが、毎年結構出てきている部分があるんですけども、今回のこ

の補正で上げられる分というのは、もうその繰り越しになるような件名はないということで理解をしてよろしいでしょうか。

○建設部長（船藏満彦君） 委員長。

○委員長（田方芳信君） 船藏部長。

○建設部長（船藏満彦君） はい。今回補正でお願いしております竜西幹1号ですね、これは、地元及び隣接の地権者との合意は、もう済んでおりますので、工事はスムーズにいくものと考えております。

それから、鏡町の小路長、「小路長溝線」と呼ぶ者あり）小路長溝線ですね。これについては、用地費を計上しておりますが、一応、地権者の合意は得られておりますものの、具体的な用地交渉には至っておりませんので、これからということをごさいますて、これも、よっぽどのことがない限りは大丈夫かなと考えております。

あとにつきましては、もう今、課長が説明したとおりでございまして、以上でございます。

○委員長（田方芳信君） 大倉委員。

○委員（大倉裕一君） そうですね。市民の方の財産を、今から御相談いただくということで、丁寧な対応をですね、お願いをしておきたいというふうに思います。

○委員長（田方芳信君） ほかにありませんか。

○委員（堀口 晃君） 委員長。

○委員長（田方芳信君） 堀口委員。

○委員（堀口 晃君） 10ページの橋梁維持費の50万円の補正額なんですけど、これ、大平2号橋というふうに御説明があったわけなんですけれども、この橋梁の長寿命化修繕事業というのは、当初予算にですね、上げられてあったんだろうと思うんですよ。いろいろですね。なぜ、ここだけがこの50万円という金額が補正で上がってきたのかというところを、ちょっと御説明いただけますか。当初予算で組まれなか

った理由も含めて。

○建設部長（船藏満彦君） 委員長。

○委員長（田方芳信君） 船藏部長。

○建設部長（船藏満彦君） はい。当初予算で組んでおります。（「あ、組んでいる」と呼ぶ者あり）750万円組んでおりましたんですが、今ちょうど設計を調整しましたところ、50万円ほど足りないということで、50万円を今回の追加内示で来ましたもんですから、それに50万円を充てているところでございます。

以上でございます。

○委員（堀口 晃君） 委員長。

○委員長（田方芳信君） 堀口委員。

○委員（堀口 晃君） 説明のときにですね、当初予算でそうやって組んどって、そして、この750万円足らなくて、50万円が今度追加補正になったってということでの御説明ならば、総額の800万円であるというようなことであるならば、最初から50万円という説明ではなくて、800万円の、——750万円で足らなくて、50万円補正をするものだということの御説明をしていただきたいというふうに思っていますので、よろしく願いいたします。

○委員長（田方芳信君） ほかにありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（田方芳信君） なければ、以上で質疑を終了します。

意見がありましたらお願いします。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（田方芳信君） なければ、これより採決いたします。

議案第74号・平成25年度八代市一般会計補正予算・第3号中、当委員会関係分について、原案のとおり決するに賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者 挙手）

○委員長（田方芳信君） 挙手全員と認め、本案は原案のとおり可決されました。（「ありがとうございました」と呼ぶ者あり）

◎議案第75号・平成25年度八代市公共下水道事業特別会計補正予算・第1号

○委員長（田方芳信君） 次に、議案第75号・平成25年度八代市公共下水道事業特別会計補正予算・第1号を議題とし、説明を求めます。

○理事兼下水道総務課長（松本貞喜君） 委員長。

○委員長（田方芳信君） 松本下水道総務課長。

○理事兼下水道総務課長（松本貞喜君） おはようございます。（「おはようございます」と呼ぶ者あり）下水道総務課長の松本でございます。座っての説明でよろしゅうございますか。

○委員長（田方芳信君） どうぞ。

○理事兼下水道総務課長（松本貞喜君） 議案第75号・平成25年度八代市公共下水道事業特別会計補正予算・第1号について御説明いたします。

別冊の予算書1ページをお願いします。

第1条の歳入歳出予算の総額ですが、それぞれ660万円を追加し、40億3160万円とするものでございます。

歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、2ページの第1表・歳入歳出予算補正でお示ししております。

本補正の内容につきましては、平成24年度分の下水道事業特別会計における消費税及び地方消費税、以下、消費税と言います、を納付するための補正でございます。歳入では、款2・使用料及び手数料の項1・使用料を220万円、款6、項1の繰越金を940万円増額し、款7・諸収入の項3・雑入を500万円減額し

ております。

また、歳出では、款1の項1・公共下水道事業費を660万円増額しており、詳細につきましては、4ページ以下の歳入歳出補正予算事項別明細書に記載しております。

ここで、消費税について御説明いたします。消費税の納付税額は、下水道使用料など課税売上に含まれます消費税額から、工事発注など支出にかかりました消費税額を差し引いた額を翌年度の9月末までに申告し、納付もしくは還付を受けるものでございます。

これまで、下水道事業におきましては、事業実施のために支払った消費税額が使用料収入に含まれます消費税額を上回っていたため、申告により消費税の還付を受けておりました。本年度予算においても500万円の還付を見込んでおりましたが、前年度の使用料収入が当初見込みより上回ったことや事業費の縮減による支払い消費税の減、さらには繰り越し事業に伴い消費税の支払いも翌年度となったことから、支出に係る消費税額が当初見込み額より大幅に減となり、申告開始以来、初めて消費税を納付することになりました。そこで、9月末が納付期限である確定申告分と来年3月が納付期限となる中間申告分を合わせました660万円の補正をお願いしております。

それでは、5ページをお願いします。

歳入では、款2・使用料及び手数料、項1・使用料、目1・下水道使用料を25年度分の中間申告分として220万円増額しております。中間申告につきましては、前年度の確定消費税が60万円を超え、500万円以下の事業を対象に、前年度の確定消費税額の半分を翌年3月に支払う仕組みでございます。そこで、今回、確定申告に係る補正額440万円の半分に当たる220万円を中間申告として計上しております。

次に、款6、項1、目1の繰越金についてで

すが、次の款7・諸収入の500万円の減額分と9月末が納付期限となっております確定申告分440万円を合わせました940万円を増額しております。

次に、款7・諸収入、項3、目1・雑入についてですが、当初、消費税については還付の見込みであったため、消費税還付金として500万円を計上しておりましたが、先ほど説明いたしましたとおり、消費税の納付事業となりましたので、500万円を減額いたしております。

6ページをお願いします。

歳出についてですが、目1・下水道総務費、節27・公課費において、9月末が納付期限となっております平成24年度の確定申告分440万円と25年度分の中間申告分220万円を合わせました660万円を計上しております。

以上、議案第75号・平成25年度八代市公共下水道事業特別会計補正予算・第1号の説明といたします。御審議のほど、よろしく申し上げます。

○委員長（田方芳信君） それでは、以上の部分について質疑を行います。

○委員（橋本幸一君） いいですか。

○委員長（田方芳信君） 橋本委員。

○委員（橋本幸一君） 24年度のその消費税の見込み違いということですが、25年度の見通しというのはどういう状況。

結局、使用料というのは、ある程度想定できるわけでしょう。それと、事業費というのも、工事費というのもある程度推定できるわけですが。

○委員長（田方芳信君） 松本課長。

○理事兼下水道総務課長（松本貞喜君） この25年度で払います24年度分の確定申告につきましては、先ほど説明をいたしましたように、事業費の縮減あるいは繰越額がふえたために納付義務が発生しましたが、25年度につきましては、今、下水道につきましては、企業

会計導入ということで、27年度導入を予定してまして、それが27年度からですので、26年決算から打ち切り決算ちょうことになるんですけど、その辺に對しまして調整を上げてます。だから、25、26で、事業をある程度繰り越しをなくして仕上げる予定でやっていますので、普通の通常で行ったら、納付じゃなくて還付になる見込みだと思います。

○委員長（田方芳信君） 橋本委員。

○委員（橋本幸一君） 恐らく今度は、予定納税というのは、もう発生しないと見ているわけですか。

さっき言われたように、前年度の消費税の納付実績によって本年度のある程度、予定納税みたいにして払うわけでしょうが。今年度はもう、それはもう発生、——次年度には発生せぬと見てよかったですか。

○委員長（田方芳信君） 松本課長。

○理事兼下水道総務課長（松本貞喜君） それにつきましてははですね、また25年度の、26年度になったときの確定申告として消費税の計算をやります。そのときに、今言いました…

○委員（橋本幸一君） ということは、結局は、25年度は、——今年度は何%あるってさっき言われたかな。25年度分前倒しみたいな感じになるわけでしょうが。

○委員長（田方芳信君） 松本課長。

○理事兼下水道総務課長（松本貞喜君） 額によりましてですね、中間申告分というのは、その前の確定申告分の額によりまして1回払いであり、3回払い、——3つの取り決め事がありまして、額によって違います。今回は500万円未満、——440万でしたので、確定申告分の2分の1を来年の3月で払うということ。

（委員橋本幸一君「払うわけですね」と呼ぶ）ええ。

来年度は、また、消費税の計算をやりまして

……。

○委員（橋本幸一君） その差額で、還付があるかないかちゆうことがはっきりするわけでしょうが。

○理事兼下水道総務課長（松本貞喜君） そうですね。

○委員長（田方芳信君） 橋本委員。

○委員（橋本幸一君） で、そこを見込んで、ある程度想定できるとじゃなかですか。工事費というのが、今年度はもう大体想定できるし、それと、使用料収入というのも、大体想定できるわけで、今後の運営というのは……。

○委員長（田方芳信君） 古田係長。

○下水道総務課経営係長（古田和弘君） はい。先ほど25年度の確定申告、要するに、26年9月の申告時における還付、もしくは、納付状況の御質問だと思いますが、（委員橋本幸一君「そうそうそう」と呼ぶ）まず、25年度予算につきましては、先ほど松本課長が申し上げましたように、事業費のほうを大幅に縮減しておりまして、なおかつ、24年度から25年度への繰越額約3億1500、——3億1000万円ほどあると思いますが、それを全て支出、——歳出予算を全て支出した場合で、恐らく300万、——金額はちょっとわかりませんが、今年度並みの納付になるかとは思いますが、

ただし、歳出につきましては、不用額のほうが生じますので、金額をここで幾らになるというのは、現時点で申し上げるのは、非常に厳しい状況でございます。（「ああ」と呼ぶ者あり）預かり消費税、歳入につきましては、大体的見込みということで、各自計算のほうはできますが、歳出については、なかなか現時点での計算ということは厳しいかと思われま。

以上です。

○委員（橋本幸一君） はい。

○委員長（田方芳信君） よろしいですか。

○委員（橋本幸一君） はい、結構です。

どっちみち企業会計導入ということで、いろんな事務の煩雑さも出てくると思いますが、それについても、きっちり議会のほうにも説明できるようにですね、また随時、報告願いたいと思います。

○委員長（田方芳信君） よろしいですか。

ほかにありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（田方芳信君） なければ、以上で質疑を終了します。

意見がありましたらお願いします。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（田方芳信君） なければ、これより採決いたします。

議案第75号・平成25年度八代市公共下水道事業特別会計補正予算・第1号について、原案のとおり決するに賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者 挙手）

○委員長（田方芳信君） 挙手全員と認め、本案は原案のとおり可決されました。

◎議案第68号・市道路線の廃止について

◎議案第69号・市道路線の認定について

○委員長（田方芳信君） 次に、事件議案の審査に入ります。

まず、議案第68号・市道路線の廃止について及び議案第69号・市道路線の認定については、関連がありますので、本2件を一括議題とし、採決については個々に行いたいと思いま。

それでは、議案第68号・市道路線の廃止について及び議案第69号・市道路線の認定について説明を求めます。

○土木管理課長（鶴山信一君） はい。委員長。

○委員長（田方芳信君） 鶴山土木管理課長。

○土木管理課長（鶴山信一君） はい。おはよ

うございます。（「おはようございます」と呼ぶ者あり）土木管理課長の鶴山でございます。よろしくお願ひいたします。座って説明をさせていただきます。

それでは、議案第68号及び議案第69号につきましては、関連がございますので一括して御説明させていただきます。

今回の御審議をお願いする路線は、廃止路線が2路線及び再認定路線が2路線となっております。2路線とも鏡町でございます。

議案書29ページ及び33ページの議案第68号、69号での廃止・認定を行います路線番号1-3上鏡芝口野崎線について御説明をいたします。位置図につきましては、廃止路線を30ページ、認定路線を34ページに示しておりますが、こちらに大きな図面を用意しておりますので、ごらんください。

こちら全体が鏡町の管内図でございます。図面の北のほう、――上のほうが北の方位になります。こちらが、氷川ですね。で、鏡川、そうしまして、南北にJR、それと、あと県道八代鏡宇土線ですね。で、県道八代不知火線。氷川と鏡川の挟まれたほぼ中央部に上鏡芝口野崎線という路線が走っておりまして、起点が市営住宅の中次団地を起点といたしております。図面についてよろしゅうございますでしょうか。位置図についてよろしゅうございますでしょうか。（「はい。わかった」と呼ぶ者あり）

廃止・認定の提案理由ですが、上鏡芝口野崎線は市道野津橋小路長溝線から県道八代鏡宇土線、県道八代不知火線を横断して、野崎堤防までを結ぶ路線であります。この路線の起点を市営住宅中次団地西側にしてありますが、道路改良に伴い東側の市道野津橋小路長溝線まで延伸したことで、起点の位置を変更することにより、一旦市道路線を廃止して、再認定するものです。なお、認定後の路線延長としましては、6614.7メートルです。

次に、廃止・認定します路線番号222西区6号線について御説明いたします。位置図につきましては、廃止路線を31ページ、認定路線を35ページに示しております。こちら先ほどの大きな図面を用いて御説明いたします。

先ほど説明いたしましたこの路線が鏡川でございます。南側のほうにありますのが、大鞆川ですね。現在の起点といたしておりますのが、県道太牟田大鞆八代港線を起点といたしまして、海側のほうにあります潮遊沼側を終点といたしております。起点として予定をしておりますのが、県道八代不知火線のすぐ西側の市道でございます。

廃止・認定の提案理由ですが、西区6号線は、起点が北新地の県道太牟田大鞆八代港線から終点を西側の潮遊沼までとしておりますが、市道として管理する必要性から、起点を県道八代不知火線の西側を並行する北新地塩浜西線からに変更することにより、一旦市道路線を廃止して再認定するものでございます。なお、認定後の路線延長といたしましては、1960メートルです。

以上で、議案第68号及び議案第69号の説明を終わります。御審議のほどをよろしくお願ひいたします。

○委員長（田方芳信君） それでは、以上の部分について質疑を行います。

○委員（大倉裕一君） はい。

○委員長（田方芳信君） 大倉委員。

○委員（大倉裕一君） 済みません。上鏡芝口野崎線の旧路線のときにですね、中次団地の敷地に面したところの道路がありますですね。それは、もう道路ということではなくて、中次団地の敷地というような取り扱いになつたんですかね。そこを御説明いただけますか。

○土木管理課長（鶴山信一君） はい。

○委員長（田方芳信君） 鶴山課長。

○土木管理課長（鶴山信一君） はい。現認定

道路につきましては、市営住宅の中次団地の西側を起点といたしておりますが、今回、市道に予定しております部分は、以前は市営中次団地の敷地内ということでございます。

○委員長（田方芳信君） 大倉委員。

○委員（大倉裕一君） はい。わかりました。

それと、もう1点、2つの路線で共通してお聞きしたいんですが、市道に認定をしてほしいというのは、地域のほうからお声が上がったのか、それとも、行政のほうで自主的に市道に繰り上げをというような判断をされたのか、そこを、——そもそもの話の出たところを教えてくださいたいと思います。

○土木管理課長（鶴山信一君） はい。

○委員長（田方芳信君） 鶴山課長。

○土木管理課長（鶴山信一君） はい。今回の市道路線の廃止・認定につきましては、道路管理を所管しております鏡建設事務所のほうからですね、廃止・認定をしたいという申し出でございました。

○委員長（田方芳信君） よろしいですか。大倉委員。

○委員（大倉裕一君） はい。その建設事務所の先はどうなっとつとですかね。建設事務所には、地域の方が要望でされたのか、じゃなくて、いや、建設事務所としてということで、こういう案を考えられたのか。

○委員長（田方芳信君） 鶴山課長。

○土木管理課長（鶴山信一君） はい。建設事務所のほうで、案を考えたとということでございます。

○委員長（田方芳信君） よろしいですか。

ほかにありませんか。

○委員（堀口 晃君） はい、委員長。

○委員長（田方芳信君） 堀口委員。

○委員（堀口 晃君） 質疑でも何でもなかったですけども、基本的なことなんですけども、今回、第68号であり、69号であり、起点と終

点がございます、修正が上がってますよね。まず、そのことから御説明をいただかないと、いかぬのかなと思って。

修正案は、それぞれの議員持ってらっしゃるけども、ここで御説明する分については、修正案のところが必要かなと思っているんですが、そこが1つと、もう1つ、最初に提案されるときに、なぜ修正、——ここでは確認できなかったのかということ、そこをちょっとお聞かせください。

○土木管理課長（鶴山信一君） はい。

○委員長（田方芳信君） 鶴山課長。

○土木管理課長（鶴山信一君） はい。正誤表で修正させていただきましたことを大変申しわけなく思っております。

鏡町の道路台帳の調書が、——道路台帳の調書のほうがですね、告示に従って起終点の修正がなされていなかったと。で、今回、議案作成時にですね、調書を、——調書の起終点をそのまま上げたということで錯誤が生じまして、再度、調書のほうと図面と議会の告示のほうを、再度精査やりましたところ、今回、錯誤で修正させていただいたというような結果でございます。

まことに申しわけございませんでした。

○委員長（田方芳信君） よろしいですか。

○委員（堀口 晃君） 委員長。

○委員長（田方芳信君） 堀口委員。

○委員（堀口 晃君） はい。調書、もともとの部分が違ってたという話で、そのまま引用しとったら、実はそれが違ってて、そっちを変えなければならなかった、で、こちらのほうも変えたということですよ。ね。（土木管理課長鶴山信一君「はい」と呼ぶ）わかりました。はい。

○委員長（田方芳信君） ほかにありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（田方芳信君） なければ、以上で質

疑を終了します。

意見がありましたらお願いします。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長(田方芳信君) なければ、これより採決いたします。

まず、議案第68号・市道路線の廃止については、可決するに賛成の方の挙手を求めます。

(賛成者 挙手)

○委員長(田方芳信君) 挙手全員と認め、本案は可決されました。

次に、議案第69号・市道路線の認定については、可決するに賛成の方の挙手を求めます。

(賛成者 挙手)

○委員長(田方芳信君) 挙手全員と認め、本案は可決されました。(「どうもお世話になりました」と呼ぶ者あり)

◎議案第70号・契約の締結について(八代市公共下水道八代市水処理センターの建設工事委託)

○委員長(田方芳信君) 次に、議案第70号・八代市公共下水道八代市水処理センターの建設工事委託に係る契約の締結についてを議題とし、説明を求めます。

○下水道建設課長(楠本研二君) はい。

○委員長(田方芳信君) 楠本下水道建設課長。

○下水道建設課長(楠本研二君) はい。おはようございます。(「おはようございます」と呼ぶ者あり) 下水道建設課長、楠本です。よろしく願いいたします。座らせて説明させていただきます。

説明に当たり、配付しております資料の確認をしたいと思います。こういうA4の1枚とA3の1枚、お手元にありますでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

それでは、議案の37ページをお開きください。議案書です。

議案第70号・契約の締結について。提案理由ですが、本市が予定価格1億5000万円以上の工事請負契約を締結するには、八代市議会の議決に付すべき契約に関する条例第2条の規定により議会の議決を経る必要があることから、その承認を求めます。

工事件名、八代市公共下水道八代市水処理センターの建設工事委託。

工事場所、八代市新港町3丁目1番地。

契約金額、2億4000万円。

契約の相手方、東京都新宿区四谷3丁目3番1号、日本下水道事業団、理事長、谷戸善彦。

以上が、主な契約の内容でございます。

次に、資料の1ページをごらんください。

八代市水処理センターは、昭和60年3月に供用を開始し、現在、約28年が経過しているため、土木・機械・電気設備のほとんどの機器類が耐用年数を大幅に超えている状況です。そのため、老朽化による機器故障の頻発や安全性の確保が困難となっております。

この老朽化の対策としまして、平成19年度から平成23年度の5カ年で、第1期の改修工事を実施しました。工事内容等については、下段の7番に明記しております。

今回は、平成23年度に策定しました長寿命化計画に基づき、早急に改築が必要な処理施設の中核を担う機器につきまして、改修・更新を行うものです。

工事期間としましては、平成25年度から26年度までの2カ年を契約期間とし、委託先は、地方共同法人、日本下水道事業団との契約を締結するものです。

続きまして、2ページをごらんください。

今回の工事箇所及び内容について説明いたします。

まず、番号の1番、沈砂池につきましては、水路防食塗装と点検ぶたの更新。2番の最初沈殿池は、汚泥かき寄せ機の更新と水路防食塗

装。3番の反応タンクは、明かり取り用のガラスブロック及び点検ぶたの更新。4番目の最終沈殿池は、汚泥かき寄せ機の更新。5番の砂ろ過設備は、計装用計器の更新。6番の管理棟は、非常放送設備の更新となります。そのほか、電気設備として、各種監視制御操作盤などの更新が主な工事内容となっております。

これらの工事は、水処理センターを停止することなく、稼働させながらの工事となっております。

また、財源の内訳としましては、社会資本整備総合交付金、補助率55%で、残りは市債となっております。

最後に、工事委託の契約の相手方として、日本下水道事業団としておりますのは、日本下水道事業団は、地方公共団体における下水道事業推進を目的として、日本下水道事業団法に基づき設立された国の認可法人であり、地方公共団体の支援機関として地方公共団体が出資する地方共同法人であり、当水処理センターの建設当初より委託を行っております。

今回の業務は、発注設計、工事の発注、管理・監督、完了検査、総合運転、事後点検のみならず、会計検査院の現地検査の対応も含まれ、工事の発注から会計検査院の現地検査受検までの多岐にわたる業務を総合的に実施する団体として日本下水道事業団のみでございます。このようなことから、地方自治法施行令第167条の2第1項第2号、その性質または目的が競争入札に適しないものにより、随意契約を行うものでございます。

以上、御説明を終わります。御審議のほど、よろしく願いいたします。

○委員長（田方芳信君） それでは、以上の部分について質疑を行います。

○委員（中村和美君） いいですか。

○委員長（田方芳信君） 中村委員。

○委員（中村和美君） お聞きいたします。私

がわからぬとは、日本下水道事業団を通すというのが、私はひとつはわからぬとだけど、こういう工事を、——これは八代の地元の業者さんでできはしないかなと思うし、何か、今、課長、おっしゃったように、最後の監査か何か、総合的なもんが日本下水道事業団でなからぬばいかぬというようなことですが、私としては、地元企業をぜひという感じで思うわけなんですけど、この工事に対しては直接、この事業団のほうでやるわけですか。それとも、この工事はやっぱり地元の業者をこの事業団が使うわけですか。

○委員長（田方芳信君） 楠本課長。

○下水道建設課長（楠本研二君） はい。地元業者への発注につきましてはですね、八代市下請契約報告事務取扱指針の第3条というのがありまして、元請に対しましてですね、工事の資材の調達あるいは工事の一部を請け負わせて施工させるようにですね、——地元の業者を、させるように努力に努めなければならないということですね、特記仕様書に明記しまして、可能な限り市内の業者及び資材を活用するようにしております。要請をしております。

○委員（中村和美君） はい。

○委員長（田方芳信君） 中村委員。

○委員（中村和美君） 何か、裏に何かやかましかつのあらせぬかなというような感じがするわけなんですけど、今、課長がおっしゃったとおりですね、できる限りの地元で、そして地元の商品をですね、扱うような、これ以上、私の専門じゃなかですけん、言われぬ。ただ、感じたこととお願いをしときたいと思います。とにかく地元を中心にですね、やっていただければと思います。

以上です。

○委員長（田方芳信君） ほかにありませんか。

増田委員。

○委員（増田一喜君） 契約金額、2億4000万、これは税抜きですか、税込みですか。（下水道建設課長楠本研二君「はい」と呼ぶ）税抜き、税込みどちらですか。契約金額。

○下水道建設課長（楠本研二君） はい。

○委員長（田方芳信君） 楠本課長。

○下水道建設課長（楠本研二君） はい。税込みです。

○委員（増田一喜君） はい。

○委員長（田方芳信君） ほかにありませんか。

○委員（大倉裕一君） はい。

○委員長（田方芳信君） 大倉委員。

○委員（大倉裕一君） はい。随意契約ということで御説明がありましたけども、随意契約を交わされた交わり方、どういうふうにこの金額を見積もって、算出して、契約に至ったのかという流れをちょっと御説明いただけますか。

○下水道建設課副主幹兼水処理センター場長（松野光洋君） 済みません。委員長。

○委員長（田方芳信君） 松野場長。

○下水道建設課副主幹兼水処理センター場長（松野光洋君） はい。金額の設定なんですけれども、まずは、長寿命化計画を平成22年、——22年、23年で作っております。それに基づきまして、昨年度24年度に詳細設計を行っております。で、その中で、実際、工事が、水処理センター自体が、工事、——施設をとめることができずにそのままの施工となりますので、工事が可能な施設の部分につきまして、精査を行っております。で、それから、この2億4000万という金額をはじき出しております。

○委員長（田方芳信君） 大倉委員。

○委員（大倉裕一君） はい。設計を、——見積りの設計をされたということだったんですけど、それはどこがされたんですか。職員さんでされたんですか。

○下水道建設課長（楠本研二君） はい。

○委員長（田方芳信君） 楠本課長。

○下水道建設課長（楠本研二君） はい。設計のあれ、——金額算出につきましては、日本下水道事業団のほうで算出されました。

○委員長（田方芳信君） 大倉委員。

○委員（大倉裕一君） はい。そのときの見積もりと今回の工事内容ですね。その見積もりから出されたというふうに思うんですけども、その見積もりの金額と今回の工事費、幾らか安くなってるとか、幾らか高くなってるとか、どのような状況になっとりますか。

○下水道建設課副主幹兼水処理センター場長（松野光洋君） はい。

○委員長（田方芳信君） 松野場長。

○下水道建設課副主幹兼水処理センター場長（松野光洋君） 見積もりの当初の詳細設計についての見積額に対しての今回の額になりますでしょうか、御質問の内容は。

○委員（大倉裕一君） はい。

○委員長（田方芳信君） 大倉委員。

○委員（大倉裕一君） はい。長寿命化計画を立てるときに、見積もりをとられたということだったですね。で、その見積もりは、今回契約をされる日本下水道事業団から見積もりをとられたと。で、この工事、ここに6つの内容を今回対象としてされているみたいですけども、その6つを足し合わせた見積もりの金額と今回の工事費、——契約の工事費ですね、が、どのような関係にあるのか。多少の差額が出ているのかどうか。丸々、その見積もりもらったときの金額が、この工事費ですよと言われるのか、そのあたりを御説明いただきたいと思うんですけど。

○下水道建設課副主幹兼水処理センター場長（松野光洋君） はい。

○委員長（田方芳信君） 松野場長。

○下水道建設課副主幹兼水処理センター場長

(松野光洋君) はい。詳細設計で出ました金額については、十分、市と協議を行いまして、確認はしてるんですけども、機器類自体が特別な、特殊な機器類の金額になりますので、その分は事業団から上がってきた金額になっております。

○委員(大倉裕一君) はい。

○委員長(田方芳信君) 大倉委員。

○委員(大倉裕一君) はい。もう、今回、契約をされているということで、もう遅い部分もあるんですけども、これ、先ほど中村委員も言われて、地元にもできる工事があるんじゃないかっていうふうに言われたんですよね。地元から見積もりをとって、比較をしてみる価値は物すごくあると思うんですよ。ここに出さなければならぬという理由は述べられましたけども、本当にその金額というのが妥当かという部分をですね、行政として、やっぱり判断をしていくためには、もう一つの比較をする見積もりというのがあってしかるべきではないかなというふうに私は感じております。

前回、19年からですね、大型の工事をされたときにも、この事業団と契約をしなければならぬ理由について、物すごく建設環境委員会の中で議論された部分がありますので、そういったところは、担当課としてですね、しっかり検証して、この契約に臨んでいただきたいなというふうに、私は、最後意見になりましたけども、要望という形で、もう一つありますけど、確認だけさせてください。

その見積額を丸々足し合わせた金額なのか、査定をして若干金額が変わってますと言われるのか、そこだけ、もう一回確認だけさせてください。(「見積もり金額は幾らだったんですか」「見積もり金額が幾らかちゅうことだろ」「そうたい。見積もり金額が幾らだったのがこやしこんなったて。それでよか」「ちょっと小会しようか」と呼ぶ者あり)

○委員長(田方芳信君) 小会しようか。

(午前11時00分 小会)

(午前11時02分 本会)

○委員長(田方芳信君) 本会に戻します。

大倉委員から先ほどあったとおり、——質問あったとおりで、その件について答弁をお願いします。

○下水道建設課長(楠本研二君) はい。

○委員長(田方芳信君) 楠本課長。

○下水道建設課長(楠本研二君) はい。大倉委員の質問の回答なんですけど、一応、事業団のほうからは、見積もりといたしても、一式幾らの見積もりではなくてですね、各項目に対しまして設計をして、金額をはじいてあります。で、その金額をもらってるんですけども、それをそのまま、——それと同じ、まあ、同額となっておるということです。(「そつが随契だん。そこが随契の悪いところ」と呼ぶ者あり)ただ、見積もり内容が、例えば、一式幾らですよというどんぶり勘定の見積もりではなくてですね、普通、こちらで発注します積算要領とか、そういう基準にのっとった算出の仕方を出した金額を見積もりとしていただいているということです。

○委員長(田方芳信君) 大倉委員、よろしいですか。

○委員(大倉裕一君) 小会、小会の中で。もう本会。

○委員長(田方芳信君) 入っとる。本会入っとる。(委員大倉裕一君「本会ですか」と呼ぶ)

大倉委員。

○委員(大倉裕一君) だから、先ほども言ったようにですね、地方自治体が出資をした法人かもしれないけど、その見積もりというのが、本来、市場価格と、——特殊機材とかっていう話もありましたけど、市場価格と本当に

マッチしているかどうかという押さえを担当課はしなければならぬと私は思うんですよ。そこが、随契をやってもいいけど、随契をする中での行政さん、職員の仕事だと私は思うんですよ。市民の税金を使ってする仕事だと思うんですよ。そのあたりを、ちょっと確認をさせていただいたということになります。されてないということであれば、もう今回はそこはですね、強い意見としてつけ加えさせていただきますので、この次からですね、その辺のところを配慮した取り扱いを、契約をやっていただきたいというふうに要望しときたいと思います。

○委員長（田方芳信君） ほかにありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（田方芳信君） なければ、以上で質疑を終了します。

意見がありましたらお願いします。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（田方芳信君） なければ、これより採決いたします。

議案第70号・八代市公共下水道八代市水処理センターの建設工事委託に係る契約の締結については、可決するに賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者 挙手）

○委員長（田方芳信君） 挙手全員と認め、本案は可決されました。（「ありがとうございます」と呼ぶ者あり）

以上で付託されました案件の審査は全部終了いたしました。

○委員長（田方芳信君） お諮りいたします。

委員会報告書及び委員長報告の作成については、委員長に御一任願いたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（田方芳信君） 異議がなければ、異議なしと認め、そのように決しました。

小会します。

（午前11時05分 小会）

（午前11時06分 本会）

◎所管事務調査

- ・都市計画・建設工事に関する諸問題の調査
- ・生活環境に関する諸問題の調査

○委員長（田方芳信君） 本会に戻します。

次に、当委員会の所管事務調査2件を一括議題とし、調査を進めます。

当委員会の所管事務調査は、都市計画・建設工事に関する諸問題の調査、生活環境に関する諸問題の調査、以上の2件です。

このうち、都市計画・建設工事に関する諸問題の調査に関連して1件、生活環境に関する諸問題の調査に関連して3件、執行部から発言の申し出がっておりますので、これを許します。

- ・生活環境に関する諸問題の調査（微小粒子状物質PM2.5への対応について）

○委員長（田方芳信君） それでは、まず、微小粒子状物質PM2.5への対応について、執行部から発言の申し出がっておりますので、これを許します。

○環境部長（宮川正則君） 委員長。

○委員長（田方芳信君） 宮川部長。

○環境部長（宮川正則君） こんにちは。（「こんにちは」と呼ぶ者あり）環境部でございます。

今回、環境部で3点ほど、当委員会に報告をさせていただきたいと思っております。

内容につきましては、ただいま委員長からございました微小粒子状物質PM2.5への対応について、それから2点目がごみ非常事態宣言後の状況について、それから3点目が八代市環境センター建設事業の進捗状況について、この3点について担当課長より御説明させていただきます。

で、どうかよろしく願いいたします。

○環境課長（宮田 径君） はい。

○委員長（田方芳信君） 宮田環境課長。

○環境課長（宮田 径君） はい。環境課の宮田です。

1点目の微小粒子状物質PM2.5の対応につきまして御説明を申し上げます。恐れ入りますが、座って説明をさせていただきます。

お手元に資料を1枚物をお配りしております。それに沿って説明をしたいと思います。

まず、熊本県が注意喚起を行う判断方法、基準等についてでございますが、当日午前5時から午前7時の各1時間値におきまして、県内18局のうち1局でも85マイクログラム・パー・立方メートルを超えている場合、県内全域に注意喚起が行われるものでございます。

次に、注意喚起を行った状況についてでございますけれども、この注意喚起が始まった3月以降、5回注意喚起が行われております。1、2、3、4、5と下に書いてございますけれども、まず、3月5日、それと5月14日、この2日につきましては、いずれも荒尾市役所局で基準を上回ったものでございます。

それと、記憶に新しい5月22日から24日、3日連続で注意喚起となっております。22日につきましては、益城・八代・荒尾、それと熊本の神水、23日が荒尾、24日が八代で基準を上回っております。

22日につきましては、特に、基準を上回る数値が高くございまして、八代市役所局におきましても、5時、6時、7時と、それぞれこの3時点の全てで85を超える数値になっております。

それと、24日につきましても、八代市役所局で6時に90マイクログラムという数値を記録いたしまして、こちらに基づいて注意喚起がなされたものでございます。

以上、5回の注意喚起が行われております。

これに対します八代市の対応についてでございますが、県による注意喚起に即しまして、次のような対応を行っております。

まず、1番目に八代市緊急情報配信システムによるメール配信、そして、市のホームページへの注意喚起情報の掲載ということでございます。

それと、2番目に、八代市光化学スモッグ注意報等発令時の情報伝達網を通じたファクス及び電話連絡によります周知を行っております。学校・保育園等には、この連絡網を通じて伝達が行われております。

それと、次でございますが、防災無線及び広報車による周知ということで、防災無線につきましては、主要エリアにおきましては、全戸に防災無線が放送されますけれども、旧八代市エリアにおきましては、点在するスピーカーからの放送となりますので、これを補完する意味で旧八代市エリアにおきましては、補完する意味での広報車2台による広報も行っております。

それと、最後に、庁内放送及び庁内入り口4カ所の掲示による周知ということで、これらの対応を行いました。

なお、米印がついております下の2つ、防災無線と庁内放送ですね、こちらにつきましては、八代市内で基準値を85マイクログラムを超えた5月22日、それと24日、この2日間のみに、この米印につきましては実施しております。

以上、御報告させていただきます。

○委員長（田方芳信君） 本件について、何か質疑、御意見等はありませんか。

○委員（堀口 晃君） 委員長。

○委員長（田方芳信君） 堀口委員。

○委員（堀口 晃君） はい。今回の注意喚起の状況を見てみますと、益城と熊本市の神水を除けば、荒尾と八代だけというようなことで、非常に荒尾が多いなという部分が、今、この数

字で見とられるわけなんです、熊本県だけではなくて、例えば、九州という状況の中において、この地域がやっぱりこのPM2.5が異常に発生しているとかっていうそういうデータ、熊本県だけじゃなくて、九州全域にわたってのそういうふうな見方というのはされてますか。

○環境課長（宮田 径君） はい。

○委員長（田方芳信君） 宮田課長。

○環境課長（宮田 径君） はい。荒尾・八代あたりでの基準値を、数値が超えることが多いということでの御質問だと思いますが、新聞報道等でもごらんになったかと思いますが、例えば、荒尾市役所局の、いわゆる測定器の設置の仕方ですね、そういったものもかなり影響しているのではないかという推測なんです、そういったことで荒尾のほうでも考えがあるようでございます。それに基づきまして、県のほうにもそういった設置の仕方も含めて、荒尾市役所局が特に数値が出やすいということ、その辺のちょっと調査を県のほうにもされているという状況ではありますので、八代市役所局も、いわゆる、設置の環境ですね、そういったものがそれに近いような形であるのかなと、私たちもちょっとその辺は憶測の域にすぎませんが、そういった感想を持っているところでございます。

○委員（堀口 晃君） 委員長。

○委員長（田方芳信君） 堀口委員。

○委員（堀口 晃君） いや。そういうことではなくてですね、PM2.5は、実質熊本の中にあるわけ、——来てるわけですし、数値的に出てるわけですから、その設置のやり方とか、あり方じゃなくて、その周辺、例えば、荒尾であれば、今度は福岡に近いじゃないですか。福岡のほうの部分はどうなのかとか、長崎のほうから、多分来るのであるならば、長崎のほうはどうなのかという九州全体を見回したところの中での観測というか、そういう視点を持って調

べていらっしゃいますかっていう、こういう質問なんですよ。

○環境課長（宮田 径君） はい。

○委員長（田方芳信君） 宮田課長。

○環境課長（宮田 径君） はい。実は、荒尾市局が数値が高いときに、4キロ離れています大牟田の観測局をしてみますと、それほど数値が上がっていないという、4キロしか離れていないのに、数値的にはかなり大きな違いがあると。

八代市におきましても、八代市役所局が、例えば、22日には高い数値を示しましたけれども、あと、2カ所ございます八千把の測定局と、それと臨港線沿いの測定局、こちらについてもこの数値を超えるまでには至っていないということで、そういった近いところにある測定局でもちょっとその辺の誤差があるという、そういった状況でございます。

○委員（堀口 晃君） 委員長。

○委員長（田方芳信君） 堀口委員。

○委員（堀口 晃君） じゃあ、県外の部分についてのデータというのは、お持ちじゃないということではなかったですか。

○委員長（田方芳信君） 中川係長。

○環境課環境保全係長（中川順一君） 県外のデータにつきましても、環境省のホームページでは確認することができまして、例えば、熊本県内で荒尾市が高いときに、今うちの課長のほうからありました荒尾市、——大牟田のデータでありますとか、あるいは長崎のデータでありますとか、そのあたりのデータを確認することができます。

ただ、1つ言えますのは、今のところ、どこが高いというような傾向、例えば、荒尾市、——熊本県内が高いときに、ほかの地域も高いあるいは低い、もちろん、高いときもございますけれども、高くないときもあるということで、我々もそのあたりは注視しているところではあ

りますけれども、ちょっとそのあたりはまだよくわかっていないというのが現状かなと思っております。

ただ、一方、専門家の中では、例えば、有明海沿岸、——PM2.5といたしましても、海に起因する、例えば、塩分といたしますか、そういうのに起因するPM2.5もあるようですので、有明海北部沿岸地域では高くなる傾向も見られるというような話はあっております。

以上です。

○委員（堀口 晃君） はい。委員長。

○委員長（田方芳信君） 堀口委員。

○委員（堀口 晃君） 要望なんですけど、少なくとも福岡であったりとか、長崎であったりとか、鹿児島、宮崎、——この九州管内の部分のデータの測定の今の動きなんかもですね、注視しながら、八代における部分の値がどうなのかということも含めてですね、PM2.5の喚起をしていただければと思っています。よろしくをお願いします。

○委員長（田方芳信君） ほかにありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（田方芳信君） なければ、以上で微小粒子状物質PM2.5への対応についてを終了します。（「ありがとうございました」と呼ぶ者あり）

・生活環境に関する諸問題の調査（ごみ非常事態宣言後の状況について）

○委員長（田方芳信君） 次に、ごみ非常事態宣言後の状況についてをお願いします。

○ごみ対策課長（山口 剛君） はい。委員長。

○委員長（田方芳信君） 山口課長。

○ごみ対策課長（山口 剛君） はい。おはようございます。（「おはようございます」と呼ぶ者あり）ごみ対策課の山口でございます。座

って説明をさせていただきます。

ごみ非常事態宣言後の状況でございます。

平成24年度のごみの処理状況に関する報告としまして、平成25年1月、2月、3月及び年度集計のほうができましたので、そちらのほうを報告させていただきます。

資料の表紙をめくっていただきまして、1ページでございますけれども、こちらのほうが24年度の年間の集計でございます。

八代と坂本地区の収集量でございますけれども、24年度1万8274トンでございました。これは、非常事態宣言の1年前、21年の8月から22年の7月までの実績と比べますと、853トン下回っております。

これは、1日当たりの排出量にいたしますと、16.4グラムということで、50グラムということで以前からお願いをしとりますけれども、なかなか達成はできていないという状況でございます。

それから、収集とは別に、直接清掃センターへ持って来ていただきます一般・許可業者の搬入量でございますけれども、こちらのほうは24年度が9783トン、21年度と比べまして584トンの減少ということになっております。こちら、1人当たりいたしますと、12.1グラムということでございます。

全体量としまして、24年度が21年度と比べまして、1437トンの減少となっているという状況です。

こちらは、トータルしまして、——収集と搬入とトータルいたしますと、1人1日当たり約30グラムという状況でございます。

それから、資源のほうですけれども、24年度が3115トン、こちらが収集量でございます。21年度と比較しまして、313トンの増量ということになります。それから、直接搬入のほうにつきましても、32トン増量をしておりまして、トータル的に346トンの増量とな

っております。

それから、処理実績でございますけれども、収集と直接搬入を合計いたしまして、24年度が2万8056トンでございます。21年度と比較しまして、先ほど申しましたとおり、1437トンの減少ということでございます。

それから、資源物の分別を行いました後のかえりでございますけれども、中間処理後の可燃物量、こちらのほうが1939トンとなっております。

あわせて、可燃をすべき量でございますが、2万9995トンでございました。

一方、焼却処理をしました量でございますが、こちらが清掃センターで行いましたものが、24年で2万2753トンを焼却しております。こちらは、昨年は大規模改修ということで1号炉、2号炉をそれぞれとめまして、改修をしておりましたことから、かなり21年度と焼却しました量は減少しております。それに伴いまして、外部委託をしました量が6792トンでございました。

これに伴います委託金額でございますけれども、一番、——先ほどの下の欄、3億599万4000円という外部処理委託費でございます。

焼却量でございますけれども、1号炉が年間で1万1187トン、2号炉のほうが1万1565トンでございました。焼却日数にしまして291日と、2号炉のほうが279日ということになっております。

それから、1日当たりの焼却能力でございますが、合計しまして80トンでございます。これは当初、約75トン程度で、改修前焼却しておりましたものを、改修後、約、今、86トンまで上昇しております。

実際、工事後でございますが、テスト状態では90トン程度まで可能ということでテストはしておりますけれども、今後、あと5年間安定

的な稼働、そのあたりを考えていきますと、少し絞って継続的に安定して燃やしていきたいということで、少し落として86トンということで、今、焼却をしておるところでございます。

それから、日曜資源の日でございますけれども、昨年から月2回実施をしております。持ち込み量につきましては、103トンでございます。利用件数につきましては、3474ということで、かなりの利用者がっております。

年度集計のほうは以上でございます。

次のページですけれども、2ページから3ページ、4ページにつきましては、25年度の1月、2月、3月分の資料を添付させていただいておりますので、こちらのほうは説明のほうは省かせていただければと思っております。

次、5ページでございます。可燃ごみの収集量をグラフ化したものでございます。これは月ごとの搬入量の変化でございます。23年度に若干リバウンドということで、ふえておりましたけれども、24年度はまた若干でございますけれども、減少に転じているという状況になっております。

それから、次の6ページでございますが、資源物の収集量でございます。こちらのほうも、月当たりの収集量でございます。月平均としまして、24年度が260トンということで、21年度の234トンを上回って、収集、——資源物のほうは順調に伸びてきているという状況でございます。

それから、その次でございますが、7ページ、外部処理にかかった費用の累計ということでつくっております。これは22年の4月当初から24年度までを累計したグラフでございます。24年の3月までで6億824万7000円でございます。ちなみに、昨年度、先ほど説明いたしましたけれども、3億599万4000円ということで、昨年度は大規模改修がございましたということで、約半分ほどが昨年の

処理料ということになっております。

それから、次のページでございますが、一番お願いしておりました1人1日当たりの家庭から出る量の推移ということでございます。こちらのほうが、先ほどの月当たりの平均からいきましても、一応、23年度が1回上がったという状況でございます、こちらのほうも23年度に一旦上昇をして、また24年度に持ち直して下がっているというような状況でございます。

それから、ちょっと先ほど外部委託の部分で現在の状況でございますけれども、大牟田・荒尾清掃組合のほうと今年度契約いたしまして、4月に収集運搬のほうが20日前後に決まりましたものですから、その後、ゴールデンウィークが明けた次の週から搬出をいたしております。そういうことで、4月のほうは搬出はしておりませんが、5月のほうが搬出量が98.61トン、6月は16日までの現在で、今、52.68トンを搬出をしております。

そういうことで御報告をさせていただきます。よろしく御審議をお願いいたします。

○委員長（田方芳信君） 本件について、何か質疑、御意見等はありませんか。

○委員（大倉裕一君） 済みません、いいですか。

○委員長（田方芳信君） 大倉委員。

○委員（大倉裕一君） 済みません。運搬の費用は、結果的に幾らで契約ができて、処理単価が大体どれぐらいになったのかというところを教えてくださいませんか。

○委員長（田方芳信君） 山口課長。

○ごみ対策課長（山口 剛君） はい。運搬のほうでございますが、単価が税抜きで5700円でございます。税込みの5985円ということになります。

それから、RDFの処理のほうが3万6000円、こちらは税込みでございます。

それで、全体的な単価ですけれども、1トン当たりとしまして、4万1985円が1トン当たりの税込み処理単価ということになっております。

○委員長（田方芳信君） よろしいですか。

○委員（大倉裕一君） はい。

○委員長（田方芳信君） 大倉委員。

○委員（大倉裕一君） はい。菊池さんのほうに、九州産廃だったですかね、そちらのほうに出していたときからすると、3000円ぐらい、3500円ぐらい安くなったということで理解してよろしいですか。

○委員長（田方芳信君） 山口課長。

○ごみ対策課長（山口 剛君） はい。そういうことで、一応、単価的に3065円の減少になっております。

○委員長（田方芳信君） ほかにありませんか。

○委員（大倉裕一君） はい。

○委員長（田方芳信君） 大倉委員。

○委員（大倉裕一君） 私たちも、荒尾、——大牟田・荒尾の清掃組合のほうを視察させていただきまして、いろいろ状況をお聞きしてきたわけですけれども、固形化燃料ですね、——をつくるために、ごみを一旦乾かしますと、そのときに、灯油を炊くということで、できるだけ水分をなくしたごみにしていただければ、よりありがたいというお話を聞いてきたわけですが、その点は、担当課のほうでもつかんでいらっしゃると思いますが、市民への啓発という点では、どのように考えていらっしゃるでしょうか。

○委員長（田方芳信君） 山口課長。

○ごみ対策課長（山口 剛君） はい。ごみの減量化ということに伴いまして、生ごみのあと一絞りということで、広報活動をずっと行ってきたところでございます。そういう状況でございますが、先ほど説明いたしましたとおり、年度集計いたしますと、1人1日当たりの搬出量

ということで、実際問題としまして、16グラムの減量しかなくてないという状況でございます。

そういった点につきましてですね、なかなか実際、どういう広報活動がいいのかというのを非常に私たちも悩んでおるところでございます、新しい、——市民の方からこういう新しい簡単な方法があるよとか、そういう話もお聞きする場合もございますので、そういった方法をですね、今後、広報活動として、簡単に絞れる、また安く絞れると、そういう方法をですね、広めていければなというふうに思ってるわけですけども、なかなか現状としては、あと一絞りというのが伝わっていないといえますか、そういう状況でございます。

○委員長（田方芳信君） 大倉委員。

○委員（大倉裕一君） はい。総社市だったですかね、「はい」と呼ぶ者あり）ごみ袋の変動制を導入されている。市民の意識をやはり引きつける、何か施策が必要なのかなというふうに感じて帰ってきたところです。総社市さんのほうは、ごみ袋の変動、——削減をされた分をごみ袋を安くしますよというふうなですね、そういう取り組みもなさっておられました。やはり、そういった直接市民のほうに削減をした恩恵といいますか、そういったのが返ってくるような何か取り組みがもう一つ必要、工夫が必要かなというふうなところも感じましたので、これからさらに削減に向けてですね、担当課・担当部挙げて、全庁挙げてという形が一番ふさわしいと思いますが、知恵をもう1回絞り合ってますね、取り組みが進めばという期待をしておきたいと思いますので、私たちも精いっぱいそこは取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしく願いしておきます。（「ありがとうございます」と呼ぶ者あり）

○委員長（田方芳信君） ほかにありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（田方芳信君） なければ、以上でごみ非常事態宣言後の状況についてを終了します。（「ありがとうございます」と呼ぶ者あり）

・生活環境に関する諸問題の調査（八代市環境センター建設事業の進捗状況について）

○委員長（田方芳信君） 次に、八代市環境センター建設事業の進捗状況についてをお願いします。

○環境センター建設課長（小橋孝男君） 委員長。

○委員長（田方芳信君） 小橋環境センター建設課長。

○環境センター建設課長（小橋孝男君） はい。こんにちは。（「こんにちは」と呼ぶ者あり）

それでは、環境センター建設事業の進捗状況について御説明をさせていただきます。座って説明させていただきます。

資料にのっとりまして、1ページより御説明申し上げます。

まず1点目、環境影響評価の進捗状況について御説明いたします。準備書の縦覧を本年3月26日から4月25日までの1カ月間縦覧しております。

2点目です。縦覧中に準備書の住民説明会を開催しております。環境影響評価の調査範囲であります3キロメートル圏内において、その範囲に含まれる校区の5カ所で開催しております。4月9日から4月19日まで、各会場とも夜の7時から行っております。場所は、金剛小学校弥次分校、郡築公民館、八代公民館、麦島公民館、松高公民館の5カ所でございます。参加者は全部で71名、質問数は50問ございました。

その中で、主な質問を4つほど挙げておりま

す。

まず1点目、施設の処理能力が150トンから134トンへ縮減されるが、問題はないのかという御質問がございました。これに対しまして、市民の皆さんの資源21分別の協力によりまして、ごみが抑制され、規模縮小ができております。現在の市民1人当たりのごみ量は、1日当たり971グラムですが、平成29年度時点では八代市の人口は12万7000人と、それから、1人1日1キログラム排出量と想定したときに、それに台風災害ごみを加味しまして、1日134トンで計画しておりますとお答えしております。

2点目、市内全域からごみが搬入されるが、現在の道路で問題はないのかと、それからまた、どの程度増加するのかという御質問に対しまして、現在、産業道路、——ゆめタウンの前の道路ですが、産業道路の交通量は約、1日当たり1万2000台であります。今後、増加すると想定される加賀島地区への入り込み部分におけるごみ収集車の通行量は、平均ですが、1日約500台と見込んでおりまして、極端に交通量の増加はないものと予測されます。また、収集ルートにつきましても分散を行いますため、現在と比較しましても、増加はほとんどないと考えております。現在、市では、ごみパッカー車を17台所有しておりますという回答をしております。

3点目です。余熱利用の計画はどのようになっているのかという質問に対しましては、ごみ発電を行うと、2000キロワット程度の計画をしておりますという回答をしております。

それから、4点目ですが、灰や熔融スラグの処理はどうするのかという御質問に対しましては、焼却灰は全量資源化として、セメント会社等に受け入れてもらう予定でございます。熔融スラグについては、全量道路の路盤材等で資源化する予定というふうにお答えしております。

2ページ目です。準備書を縦覧しまして、住民説明会を行いまして、意見書の提出というのが行われることとなりますが、3月26日から5月10日まで意見書の提出期間がありましたが、意見書の提出状況として、提出者が2名、意見書が5件出ております。

意見内容ですが、大気質、温室効果ガス、その他に環境センターの呼称ですね、につきまして、市民にわかりやすい説明をしてもらいたいなど、こういった御意見がございました。

それから一方で、審査会が行われております。4点目です。熊本県環境影響評価審査会による建設候補地現地調査が5月13日に行われております。当日、この後、八代地域振興局に移しまして、準備書の審査も行われております。内容は、大気質、動植物、悪臭、自然災害などについての質疑及び審査が行われております。

今後の予定でございますが、5月31日から県が公述人、——環境の見地からの意見を述べる公述人を募集し、7月4日に公聴会を開く予定にされております。ただし、公述人がいない場合は、開催されないということも報告を受けております。場所は、ハーモニーホールというふうに聞いております。

6点目です。第2回審査会の開催ですが、本年の7月ごろを予定しているということで、このときに今まで集まりました意見に対しまして、県知事意見の形成がなされる予定でございます。

7点目の県知事意見につきましては、本年9月11日ごろまでに意見がまとまるというふうに聞いております。120日間を要するということです。120日目が9月11日ごろであるということです。下にそれを書いておりますね。準備書について住民意見書に対する事業者見解書の県受付の翌日から120日間ということですので、下に線を引いておりますが、知事意見

に附帯意見がない場合は、本年10月の市議会定例会に環境センター建設事業に伴います建設費及び運営費の債務負担行為の上程を行う予定としております。

8点目です。県知事意見を踏まえ、評価書を作成してまいります。

9点目です。評価書の縦覧。問題がなく、早ければ、本年11月ごろの縦覧というふうに予定しております。

それから、1点目終わりました、大きな括弧の2点目ですが、事業者選定委員会の進捗状況について御報告いたします。

まず、第7回会議の議事内容ですが、評価項目をグループごとに整理して、配点の重みづけの審議を行っていただきました。グループとは、施設計画、安全性・安定性、維持管理計画、地元貢献、リスク管理ほか、こういった評価項目をグループごとに整理して、配点の重みづけを審議していただいております。

第8回目の会議では、第7回の審議にて、建設に関する4つの基本方針、——市が出したものです、4つの基本方針をもとに市としての重みづけを持たせなさいと、それに評価項目と配点を整理、——重みづけを持たせて評価項目と配点を整理するよう指示がございました。事務局にて整理した評価項目と配点の重みづけを審議していただいております。

最後に、3ページです。荷さばき施設整備事業の進捗状況についてでございます。

当事業は、国の水産庁の産地水産業強化支援事業という交付金を受ける予定でございます。交付金率は2分の1、公募期間がことしの5月13日から6月11日まででございました。その前に、交付金申請前の事前ヒアリングに水産庁のほうに行っております。5月23日から24日の2日間です。交付金申請予定ですが、公募採択後の本年8月ごろを予定しております。設計概要につきましては、建築面積が625平

方メートル程度、鉄骨造の平屋建てでございます。

それから、2点目の今後のスケジュールについてでございますが、今年度は実施設計とボーリング調査、——地質調査を行う予定としております。来年度は、施工工事を行う予定としております。

最後に、図面ですが、全体配置図と平面図をつけております。あくまでも、現時点では、まだ案の段階ではございますが、この大きな図面を使って説明させていただきます。（「マイク、マイク」と呼ぶ者あり）

この図面の右下が環境センターの候補地です。大体、北側に当たりますが、こちらから進入してまいりまして、車を置きます。それから、今回の施設の一番最大の目的が、この荷さばきスペースというのがありますが、これが約300平方メートルです。幅が10メートルの長さが30メートルぐらいのスペースです。それから、左側に事務室と倉庫、それからトイレ、それから海水をくみ上げて、——くみ上げますので、ろ過器等の機械置き場をここに設けております。それから、右側に、——荷さばきスペースの右側に冷蔵庫、——冷凍、製氷、冷蔵を配置しております。それから、その右側に調理室と倉庫とトイレ、それから、一番右側に会議室というふうなレイアウトになっております。

それから、今回の施設の特徴といたしまして、活魚、——今までは鮮魚で取り扱っていた魚を、活魚も取り扱いたいということで、今、協議会を進めていただいておりますが、その中で、この浮き生けすというので、ベルトコンベアで生きた魚を揚げるということで、海面に浮き生けすを設置して、この生きている魚をそのまま荷さばきスペースのほうに持ち込むということになっております。

これまでとほぼ建築面積的には変わらないん

ですが、目的はいろいろ多種多様になっておりまして、水産庁のほうも3%の成果を上げるように、水産庁から言われております。

そういったことで、このさばかれた魚をどうやってルートに乗せて販売、それから、食卓に持っていかという、そちらのソフト事業のほうも予算が交付金対象になっておりますので、50万円、今回、そのうちの2分の1が交付金対象になりますが、そちらのほうの予算も措置しております。

そういったことで、ただ施設をつくるだけではなく、今後、ここに集まってきた魚介類をどのようにしてさばいていくかと、ルートに乗せていく、販路拡大していくかというのも、一つの目的として持っております。

総事業費は2億円を、今見込んでおります。

以上で説明を終わらせていただきます。

○委員長（田方芳信君） 本件について、何か質疑、御意見等はありませんか。

○委員（大倉裕一君） はい。

○委員長（田方芳信君） 大倉委員。

○委員（大倉裕一君） はい。説明いただいた枠外でもよろしいですか、委員長。

○委員長（田方芳信君） いいですよ。

○委員（大倉裕一君） 環境センターのですね、管理棟とか、マテリアル施設、こちらの検討状況はどうなっておりますでしょうか。

担当課、——環境センターの建設担当課のほうから、市民のほうにどういう環境センター管理棟がいいか、また、公園とか何か空き地の整備とかですね、そういった提言書を出してこないかという要望を何かお願いをされて、それに応えられた方々が何かおられたようなお話を聞いております。そのあたりが、全く何かその後のですね、動きが見えないということもありません。多少、御心配されている部分もあるやに聞いておりますので、そのあたり、どういう考えを持って、今後進めていこうと思われてい

るのか、進捗もあわせてお聞かせいただければというふうに思います。

○環境センター建設課長（小橋孝男君） 委員長。

○委員長（田方芳信君） 小橋課長。（「済みません。スケジュールを」と呼ぶ者あり）

○環境センター建設課長（小橋孝男君） ただいまの大倉委員のほうから御質問がございました。

提案を受けまして、管理棟等、環境学習機能というテーマで提案を受けております。八代市に環境団体、それから市民団体、幾つかございます。その方々から、それから学校現場からも、それから子供たちからも一部意見をいただいておりますが、そういった意見を受けまして、今、事業者選定委員会の中で、施設の建設に対する、それから事業者を決める手順をいただいております。

その中で、要求水準書というのをつくらなければいけません。で、その中に、当然、基本設計までこのDBOの会社に事業者選定の事業者の中にですね、基本設計をしていただくときに、総事業費、——概算事業費を提案していただくんですが、その中に、その環境学習機能、管理棟機能、それから将来建てかえ用地の機能、そういったものもパースを含めまして提案をさせます。その土台となる提案が、今、大倉委員のほうからございました市民提案、これをどう生かしていくかを、今、庁内のほうで議論しております。

非常にこれが難しゅうございますのは、維持管理費がどこまで市の財源、——一般財源になりますので、維持管理費がどこまで認められるか、財政課との詰めも必要ですし、企画との詰めも必要だと思って考えておりますが、今、その最終段階に来ております。

それを、事業者選定がことしの8月か9月ぐらいまでには、もう入札公告の準備が終わりま

す。議会のほうで債務負担の御承認いただければ、11月の頭には入札公告ができるかと思うんですが、そのときに、同時に要求水準書を、その中身を、仕様書を完成させなければいけません。そうしないと、事業者は見積もることができませんし、八代市が何が欲しいのかが全く見えませんので、それまでにはいただいた提案を精査して、市の意見として要求水準書に載せたいというふうに、今、考えております。

以上です。

○委員長（田方芳信君） よろしいですか。

大倉委員。

○委員（大倉裕一君） はい。流れはわかるんですけども、やはり市民のほうにどういう施設を望むかということで、お願いをされたら、それに応えた部分で提言書が上がってきているというふうに思います。そのあたり、市の考え方がまとまった時点で、途中経過も含めてですけども、そういった方、——提言書を上げられたところには、途中経過も含めてですね、御説明をされたいというほうが、より丁寧かなというふうに思います。

出したばってん、私たちの意見はどげんなただらうかということじゃですね、ちょっと何というんですか、これからの行政と市民との関係を考えるときに、また壁ができてしまうんじゃないかなというふうに思いますので、お願いをしときたいというのが1点と、それと、管理棟の中に、恐らく環境学習をするための会議室とかをですね、つくられるというふうに思います。

少子化というのがあって、規模を決めるのが非常に難しい点はあると思うんですけども、やはり100人ぐらい入る大きな会議室というのは、私は必要だというふうに思っておりますので、そのあたりも教育委員会あたりとですね、しっかり議論を積み重ねていただいて、検討に反映をしていただければというふうに思っ

ております。

これは要望です。

○委員長（田方芳信君） ほかにありませんか。

○委員（増田一喜君） いいですか。

○委員長（田方芳信君） はい。増田委員。

○委員（増田一喜君） はい。それと同じような質問になるかもしれないけども、公募、——公募ちゅうか、民間からされたけれども、それはどういう意味合いでされたんですか。

例えば、ちょっと聞いたことがあるんですよ。自分たちでこういうふうにやりたいとか、フリーハンドみたいな図面を描いてきて、こういう形に配置してどうとかと、そういうのを出して、たしか、それが審査されて通れば、その維持管理までちゅうか、何かそれにかかわっていけそうなどという、そういう御説明を受けたとかいう話もちらっと聞いたものだから、そこらあたりをどういうふうな説明で、そういうのを公募されたかですね。いっぱいあるはずですよ。それがそっくりそのまんま採用されるのか、それとも、あっちの公募があったそのいいところ、こっちのいいところ、それを取り合わせて、本庁としては最終的にまとめるんですかね。どういう方法でそれをされるんですか。そしてまた、それに出された人たちに対しては、どんな後の対応ちゅうのをされるのか、そのところをちょっと教えてください。

○環境センター建設課長（小橋孝男君） はい。

○委員長（田方芳信君） 小橋課長。

○環境センター建設課長（小橋孝男君） 大きな流れですが、まず、今、委員のほうから御説明がありましたとおり、正式な公募はいたしておりませんが、環境課のほうで、何でしたっけ、あれは……（「パートナーシップ」と呼ぶ者あり）パートナーシップ会議というのがございます。座長は、高専の准教授の先生ですが、

そこに御提案をいたしまして、今後、今、環境課でやってること、それからごみ対策課でやってること、啓発に関すること、それから子供たちの学習に関すること、こういったことの学校へ出向いて、勉強会などをやっております。それから、啓発活動もやっております。それから、段ボールを使った生ごみ処理の勉強会もやっております。

いろんな勉強会があるんですが、それを今度、環境センターに集約いたしまして、啓発の拠点となる、環境学習の拠点となる施設を目指したいということで、御意見を求めたというところでございます。

それから、意見をもらった団体の全てが、一一相当な数でした、提案の数が。その百数十項目に及びます提案を精査する必要がございましたので、それは市のほうにお任せいただきたいということ。それから、学校のほうにサポートセンターというのがございます。環境の先生方が集まられて、そういった勉強会をされているんですが、そこにも出向きまして、御意見を求めております。

ただ、現実の問題は、非常に厳しい問題がわかりまして、4年生で、今、——昔は八代市でもあったと思うんですが、ごみとか、し尿とか、いろんな施設を小学校の4年生で施設見学をされていたんですが、今、全て熊本県の予算で、水俣の環境センターのほうに、人権も含めた環境学習をされているということをお聞きしております。市のほうからは、そのバス代は出てないということで、1年に1回のその施設見学とか、環境に関する行動に対する予算措置というのは、市としてはされてないというふうに聞いております。

そういったことで、ここに拠点をつくっても、子供たちが集まらなければ何もなりませんので、そういったことで、ちょっと内部の、やっぱり調整が必要かなとは考えております。

そういったバックグラウンドもございまして、施設整備をしていかないと、拠点づくりだけでも、なかなか市民の方が、子供たちが集まっていけないという問題点もわかってまいりました。

そういったことを含めて、9月までにその答えを出さなければいけないなどは考えております。非常に大きな課題かと考えております。

以上です。

○環境部長（宮川正則君） 委員長。ちょっと補足でいいですか。

○委員長（田方芳信君） 宮川部長。

○環境部長（宮川正則君） 先ほど、実際、今回、提案していただいた団体の皆さん方が、例えば、提案したことによってですね、後から、例えば、何か優遇策を受けるんじゃないかというふうなお話もございましたけれども、そういったことは一切ございません。あくまでも、今回は市民目線で、どういった環境学習施設が必要かということの提案だけをですね、お願いしたというところです。

以上です。

○委員長（田方芳信君） 増田委員。

○委員（増田一喜君） 聞くところによると、募集があった、だから出しました、採用されたら、何らかのメリットがあるというふうに説明があったみたいになちゅうて私も聞いたことがあるんですよ。だから、そこらあたりはきちんと出された人たちには説明されとったほうがいいんじゃないかなと。誤解を受ける、——今、言われたように、結構、多くの数が出てきたと、私が聞いた間に、特定ちゅうか、ある程度、八代の中の5団体ぐらいとか、その程度のものかなと思ったら、今聞いたら、それ以上の、もう何十というような感じのあれがあるからですね。何かそういう意識で聞いておられた人たちもおるみたいだから、そこらの誤解は解いとかないといけないんじゃないかなという気はいた

します。

それと、もういっちょですね。さっき、何か10月ごろに入札公告云々と言われたみたいですが、10月過ぎぐらいに入札をするというか、もう業者を10月過ぎに決めるという意味にとっていいんですかね。それとも、どうなんですかね、そこは。

○環境センター建設課長（小橋孝男君） 委員長。

○委員長（田方芳信君） 小橋課長。

○環境センター建設課長（小橋孝男君） 入札全体がこの総合評価型一般競争入札という入札方式をとっております。通常の入札でしたら、例えば、指名、——業者を指名して、集まっています。いただいて、札を入れて、1日で落札者が決まるということになるんですが、この総合評価方式の一般競争入札の場合は、この、ここに入札公告書類というのがございます。ここが、通常の、例えば、仕様書でありますとか、それから、例えば、資格制限とか、条件をいろいろつけます。そのための募集要項みたいなものです。

ですから、ここから募集をしまして、例えば、これに匹敵する、この事業に参加したいという事業者がおりますと、手を挙げるタイミングをここから与えるということになります。そこから、約4カ月間、基本計画を示したり、パースをつくったり、それから、維持管理費を出したり、イニシャルコストを出したり、いろんな仕事があります。1000ページぐらいに及ぶそうです。

そういった書類をつくっていただきまして、このブルーで書いております講評、落札者決定、ここでプレゼンをしていただきます。それまでに提案書類は、それまでに4カ月間の中で市に出していただくんですが、書類を見た後、書類審査をまずやって、その後、このブルーで書いてます、これは何月ですかね、来年の5月

か、6月ごろにプレゼンをしていただいて、事業者選定委員会のこの12名の委員の方々でヒアリングをしていただきます。そして、先ほど言いました評価項目に従って点数をつけていただきます。で、最高点数のところ、第1位のところが最優秀提案者として落札者となるというふうなことになります。

ですから、ここが入札行為と言え、入札行為になります。この日に、金額と非価格要素、両方の点数で第1位のところが八代市と後で契約をするということになります。

しかし、ここで契約をいたしましても、これはあくまでも仮契約です。1億5000万以上になりますので、ここで、その次の段階で、9月ですけれども、来年の9月ぐらいに議会承認をいただかなければ本契約ができないと。ですから、最終的に相手方が決まりますのは、来年の9月以降であるというふうなふうに考えております。

以上でございます。

○委員長（田方芳信君） 増田委員。

○委員（増田一喜君） ということは、その入札公告は9月過ぎに何かするような、前聞いたんやけど、10月にずれ込むか。あのとき業者選定が9月ごろって言ったんだっけかな。ちょっとうろ覚えだったんですけど。入札公告は、10月ごろになるちゅうことね、通常で、今の通常でなるちゅうことですね。

○環境センター建設課長（小橋孝男君） はい。まず、その前に債務負担行為の全体の予算となります事業者が公募して応募してきてから、金額を、——価格面の金額を出しますので、その元となります百数十億の、——約200億ですけれども、200億のお金に対して幾らで落札しますという、まず価格面の金額を出すために、まず、債務負担の予算措置をしていただかないと、入札行為ができない、事業者が募集できないということになります。それが、本

年の11月の頭ぐらいではなかろうかと、入札公告ですね。

○委員長（田方芳信君） 増田委員。

○委員（増田一喜君） いや。ここにはですね、知事意見に附帯意見がない場合は、本年10月の市議会定例会に債務負担行為の上程を行う予定としているからですね。そういうことですか。これは、決めるちゅうのは10月以降になるでしょうけど、そこをしたいちゅうわけですね。（環境センター建設課長小橋孝男君「はい」と呼ぶ）担保をとりたいちゅうわけですね。（環境センター建設課長小橋孝男君「はい」と呼ぶ）はい。

それから、もう一つですね、けさのテレビだったんですけどね、普通は、——これは後でいいのか。わかりました。はい。

○委員長（田方芳信君） ほかにありませんか。

○委員（橋本幸一君） 関連ですが、よろしいですか。

○委員長（田方芳信君） 橋本委員。

○委員（橋本幸一君） 先般、成松議員の一般質問の中に出たわけですね。で、今回については、環境アセスの問題、それから、その後の用地の取得の問題、そして、一方では、事業者選定委員会で機種選定の問題、同時進行で行きよるわけですが、結局、一番、先ほどの事業者選定については、2方式3機種の中で点数を今回つけられるという中で、非常にですね、難しいという、答弁の中でも部長も言われましたが、その辺については、十二分にですね、公平性・平等性、その辺を含めながら、それと、今さっき副議長も言いましたが、環境アセスとのスケジュールの整合性、そこは十二分にやっぱりやっていただきたい。それについては、確認ですが、再度。

○委員長（田方芳信君） 小橋課長。あ、宮川部長。

○環境部長（宮川正則君） スケジュールにつきましてはですね、以前からお話しさせていただいていますが、まずは、それぞれですね、関係する機関のですね、手続、これがですね、当初御説明しましたように、一定のめどがつかなければですね、先に進めませんので、まずは、現状で行きますと環境アセス、こちらのほうはですね、知事意見をまず確実にですね、今の予定どおりのスケジュールで行けば、先ほど小橋が説明しました形でですね、出していただくということ。それとあわせて、実際、国・県のほうでですね、それぞれ用地を取得、——市が取得するための手続、そういったものに入らせていただいて、進行の中でですね、担保は、土地と組んで担保はできるというふうな状況を考えています。

ただ、それは、我々としましても、やはり29年度末をですね、最終的に市民の皆さん方に供用開始をお約束しているものですから、それについては確実に守りたいということがありまして、なるべくならですね、少しでも早い段階からですね、さしていただきたいと。ただ、議会にしろですね、市民の皆さん方にしろ、十分御説明できるようなですね、タイミング、そういったものを図っていきたいと思っております。

○委員（橋本幸一君） はい。わかりました。

○委員長（田方芳信君） 橋本委員。

○委員（橋本幸一君） はい。建設環境委員会のこのメンバーは、最後で改選になるわけですから、その空白期間がありますから、その辺は十分頭の中に置いてしてください。

○委員長（田方芳信君） ほかにありませんか。

松浦委員。

○委員（松浦輝幸君） 環境センターんことは、今言われたとおりだと私も思います。

ちょっとお聞きしたいというのは、荷揚げ場

かこれは、荷さばき場か、何か先ほど売り上げ3%は義務づけられていたと言われたですね。その3%の売り上げは、今まで、浮き生けすという計画はなかったでしょう。今まではですね、（環境センター建設課長小橋孝男君「いいですか」と呼ぶ）ちょっとよかですか、まだちょっと待って。（環境センター建設課長小橋孝男君「はい」と呼ぶ）これで、要するに、生きたまま東京とか、いろいろ発送される計画があるけん、あるのかなとは理解は少々できますけれども、この平面図を見たときにですね、やっぱり今、グローバル構想とか、第六次産業育成とか、いろいろあるじゃなかですか、最近。たら、この加工場というのをつくったらどうかなと思ってるんですが、そういうのは全然ない。どうですか。

○委員長（田方芳信君） 小橋課長。

○環境センター建設課長（小橋孝男君） 1点目の3%について、ちょっと担当が水産庁に行っておりますので、そこの考え方をちょっと簡単に御説明させていただきます。

それから、2点目の浮き生けすをつかった、つくらなければいけないという協議に対しましては、本協議会を配置しております。メンバーは、八代漁業の組合長、それから鏡町の漁業組合長、それから鮮魚商の理事長、それから八代市からは環境部長、商工観光部長、それから県の農林水産部長、こういった方々でこの協議会を立ち上げております。

そういった審議も進めておりますので、そこも含めまして、まず3%のほうから説明をさせます。

○環境センター建設課主査（古閑迫修君） はい。

○委員長（田方芳信君） 古閑迫主査。

○環境センター建設課主査（古閑迫修君） 3%について説明させていただきます。

3%についてなんですけれども、今回、八代

市のほうで、今回の荷さばき施設を整備するに当たりまして、現状よりも3%の、——漁師さん方の労働時間の短縮、これによりまして、3%の便益、——今よりも向上するというもの上げるということにしております。

労働時間の短縮といいますのは、先ほど図面のほうで説明もございましたけれども、船着き場のほうに浮き生けすをつくることによりまして、漁師様方が、漁船でとって来られた魚をそのまま浮き生けすのほうに移す、今ですと、船着き場のほうに、——各漁師さんの船着き場のほうにお魚を持って来られまして、自分の軽トラのところまで持って上がらないといけないと、そういった作業が大幅に短縮できることから、労働時間の短縮。

また、直接水揚げできることによりまして、各漁師さんたちの船着き場、漁港から軽トラックでの搬送を、今行っておるんですけれども、その搬送時間がなくなることによりまして、軽トラックの、例えば、燃料代の削減、これが図ることができます。

と、今申し上げましたとおり、今まで、鮮魚のほうで水揚げしていた魚種の中から、すぐに水揚げができるということで、もうしめて持ってこなくてもいいということから、活魚のほうに、魚種のほうを、今まで鮮魚でしか出せなかったものが、活魚で出せるというメリットがございます。

今申し上げました労働時間の短縮と地上運搬用の燃料費の削減、活魚へのシフト、この3項目をもちまして、今よりも3%便益が上がるというふうに算出を行っております。

以上です。

○委員長（田方芳信君） 松浦委員。

○委員（松浦輝幸君） じゃったら、活魚で、例えば、東京とか、いろいろに出すという計画は全然なかったわけですね。

○環境センター建設課長（小橋孝男君） 委員

長。

○委員長（田方芳信君） 小橋課長。

○環境センター建設課長（小橋孝男君） はい。実はございます。意見はですね、そちらのほうがちかちかという強いですが、水産庁に出すところの3%の目標設定につきましては、今申しあげました輸送、それから搬送、それから漁師さんの労働時間、こういったことから3%という数字の目標を設定いたしました。

一方では、確かに、皆さんの売上げが上がるようにするためには、やっぱりルート開拓しないと、販路拡大しないと、結果として、売値に高く、——高い売値がつかないということですので、この施設内に、本当は加工場という意見も実際あっております。

しかしながら、この当メニューから水産庁に出しますこの事業メニューの中に加工場というのがございませぬ。あくまでも、これは荷さばき施設で整備することになっておりますので、加工場をもしつくといたしますと、別予算立てになるかと考えております。ですので、御意見としてはあっております。

以上です。

○委員（松浦輝幸君） はい。

○委員長（田方芳信君） 松浦委員。

○委員（松浦輝幸君） じゃあ、要するに、3%の売上げという条件は、労働時間を短縮する、そのことによって、直接水揚げができる、そのことによって、燃料代が減る、そういうことが条件づけだったと理解できるとすけれども、これは私のあれ、せつかくだったらですね、やっぱり加工場をつくるべきじゃないかなと、ただ思っております、思ったもので、そういうことを言ったんですけども。

でも、せつかくやったらですね、やっぱり六次産業、要するに、付加価値をつけることを考えていかぬと、私はいかぬとじゃないかなと。これは漁業のことなんで、ほかの我々の農家に

してもそうなんですが、やっぱり付加価値をつけるですね、施設というのはつくるべきかなと私は思っています。いいです。要望でいいですので、結構です。

○委員長（田方芳信君） ほかにありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（田方芳信君） なければ、以上で八代市環境センター建設事業の進捗状況についてを終了します。（「ありがとうございました」と呼ぶ者あり）

小会します。

（午後0時11分 小会）

（午後0時15分 本会）

・都市計画・建設工事に関する諸問題の調査（入札・契約制度の改正について）

○委員長（田方芳信君） 本会に戻します。

次に、入札・契約制度の改正についてをお願いします。

○契約検査課長（國岡雄幸君） 委員長。

○委員長（田方芳信君） 國岡契約検査課長。

○契約検査課長（國岡雄幸君） はい。こんにちは。（「こんにちは」と呼ぶ者あり）契約検査課の國岡でございます。長時間にわたりまして、御審議どうもお疲れさまでございます。もうしばらくおつき合いをさせていただきたいと思っております。済みません。着座して、説明させていただきます。

私どものほうから、一応、入札・契約制度の改正についてということで、御報告をさせていただきたいと思っております。平成25年度から一部改正をしております項目でございます。

それでは、事前に配付いたしております入札・契約制度の改正について関係資料に基づきまして、御説明をさせていただきます。

これにつきましては、本年4月から、本市は透明性の高い入札制度を目指し、談合等のさら

なる不正防止、事務効率化、住民サービス向上を目指しまして、建設工事及び建設工事関係業務委託を対象にした電子入札システムを導入いたしております。

なお、電子入札システム導入に伴う入札契約情報につきましては、以前は、本市のホームページに掲載しておりましたが、現在は、くまもと県市町村電子入札システムに移行しております。本市のホームページの初期画面から入札情報公開サービスシステムに入り、入札契約情報が閲覧できるようにいたしております。

それでは、1ページのほうをごらんいただきたいと思います。まず、第1点目、電子入札システム導入に伴う入札・契約情報の取り扱いにつきまして、中段記載のとおり、2点ほど変更いたしております。

具体的には、発注の見直しに関する事項中、建設工事の予算額について、以前、公表していたものを非公表に。それと、これらにつきましては、入札及び契約の内容に関する事項中、指名競争入札に係る指名業者の商号・名称について、入札前に公表といたしておりましたものを、入札後に公表、これにつきましては、落札者決定後に公表ということに見直しを行っております。

それぞれの見直しの理由といたしましては、まず1点目、本市の発注の見直しに関する事項の公表のうち、建設工事の予算額につきましては、国が定めております法令、——正式名称でございますけれども、公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律施行令に公表するという規定はされておられません。それと、ほとんどの自治体でも公表しておられません。なお、公表することにより、事前の受注調整や指名の口利き等の不正行為を促すおそれがあると考えられますことから、公表の段階で額が未確定であることや公表後も設計変更等の理由で額が変更になる場合があることから、予算額につま

しては非公表といたしております。

2点目の入札及び契約の過程に関する情報のうち、指名競争入札を行った場合における指名競争入札に係る指名業者の商号・名称に係るものにつきましては、国から、入札前に指名業者名が明らかになると入札参加者間での談合を助長しやすいとの指摘があり、事後公表の拡大に努めることが示され、これに基づきまして、本市としても入札前に公表することで不正行為を助長するおそれがあることは否定できないということから、指名競争入札に係る指名業者の商号・名称を事後公表といたしております。

続きまして、2点目でございます。中間前金払い制度の導入でございます。これは、受注した建設業者の資金調達の円滑化を図るため、現在、導入しております前払い金、部分払い、代理受領制度に加えて導入いたしております。要領で規定している一定の要件を満たせば、当初の前払い金に追加して、工事代金の一部を請求、受領できる制度でございます。

2ページをごらんいただきたいと思います。

第3点目、現場代理人の常駐義務緩和でございます。現場代理人は、請負契約の履行に関し、工事現場に常駐し、その運営・取り締まりを行うほか、契約約款に基づく請負者の一切の権限を行使できる、言いかえれば、社長の代理として現場に常駐して、現場運営・取り締まり及び契約関係実務を処理する請負者の代理人を言ひまして、必ずしも、技術系以外の職員でも可能とされております。今回、厳しい経営環境下における施工体制合理化のため、人員不足による現場ごとの常駐配置が困難なことに配慮いたしまして、一定の要件を満たせば、常駐緩和に伴い、複数の工事の現場代理人を兼任できるように改めております。

次に、4点目でございます。低入札価格調査の簡素化を行っております。この低入札価格調査は、本市が競争入札により契約締結をしよう

とする場合、予定価格の範囲内で最低の価格をもって申し込みをした者が契約内容に適合した履行がなされないおそれがあるときに、調査基準価格を設定し、行っております。従来、その調査基準価格未満の価格で行った者を、全ての人を調査対象としておりましたが、今回、最も低い価格による入札を行った者のみをその対象とする旨、簡素化したものでございます。

最後に、5点目でございます。指名停止の運用の見直しを行っております。まず、不誠実に該当する行為の継続期間についてでございます。従来、指名された者が入札不参加、現場説明会・閲覧遅参等、不誠実に該当する行為につきましては、有資格者名簿の有効期間、——2年間でございますけれども、は、その事実が継続され、有効期間の初めと終わりでは、その事実が継続する期間に大きな差が生じておりました。この不公平を是正するために、不誠実に該当する行為の日の属する月から起算して12カ月経過後にその事実が消滅する旨、改めております。

3ページをごらんいただきたいと思っております。

次に、工事と物品役務の行為の回数の通算でございますが、従来、工事と物品役務では、同一業者であっても、別々に通算しておりましたが、今般、工事と物品役務両方に登録される業者がふえておりますことから、工事と物品役務で回数を通算するものでございます。

なお、ただいま御説明いたしました入札・契約制度の一部改正5項目につきましては、4月1日付で本市のホームページに掲載し、その周知を行っております。今後も、より透明性・公平性・競争性が確保できるよう、確保できる制度とするとともに、市内業者の受注機会の確保の配慮に努めてまいりたいと考えております。

以上で報告を終わります。よろしく御審議をお願いいたします。

○委員長（田方芳信君） 本件について、何か

質疑、御意見等はありませんか。

○委員（増田一喜君） はい。

○委員長（田方芳信君） 増田委員。

○委員（増田一喜君） 最初のこの電子入札システム導入に伴う入札・契約情報の取り扱いというところの真ん中に書いてますよね。発注の見通しに関する事項、それから、入札及び契約の内容に関する事項ということで、建設工事の予算額、指名競争入札の指名業者さんが、前は、予算額も公表していましたが、それから、指名業者さんも公表しておったものが、非公表あるいは入札後に公表、もっとわかりやすく言えば、落札者決定後に公表ちゅうことですね。

これは、大体、談合という話はですね、業者間だけの談合ちゅう話だけじゃなかですよ。官製談合ちゅうこともあつとですよ。そこらあたりも考えてほしいので、業者さんだけが談合をするというふうなみなし方をしているけれども、何で官製談合ちゅう話があるのか。ということは、行政の担当者から一番トップまで、そのことに関する、関係する人間さんたち、人はおるわけでしょう。そこをよう考えないけぬと思えますよ。

業者のための談合は、これでいくと防げますと言うけれども、よくよく考えてください。したら、結局、官製談合ちゅうものは残ってるわけでしょう。これ、一極集中してしまやせぬですか。それよりも、公表したほうが、皆さんが知ってるから、どこでおかしなことがあったのか、もし、何事があれば、どこであったのかなちゅうのを皆さんがそれぞれ考えていけるし、ずっと追求していけるところがあるけどですね。このまんましてしまうと、一極集中してやられたら、どうもならんっちゃなかかなと思うんですよ。言うたら、先ほどの説明じゃ、業者間の談合の助長とか、そういうのがあっても、私は、それもあるでしょうけれども、官製談合の温床にもなるし、助長にもならせぬかと

思いますよ、これは。

そこらあたり十分考えていかないと、ただ、暗に業者さんの談合を防ぐだけ、防ぐだけというような話をされますけれども、公務員だって悪い人はいるんですよ。普通は、絶対悪いことしない、そういうふうなことでやっていかれますけれども、日常の新聞にもよく出てるでしょう。結局、その権限を持った人たちが、そこにかかわっていくからああいう新聞沙汰になっていくちゅうことですね。下っ端はわからないんです。下っ端はそういうところにも権限ないから手出せないし、だけど、やっぱりそこにおる人、そこまで考えて、談合防止ちゅうのは考えないけぬと思いますよ。これ、一方の民間だけ考えて、官製談合の解消にはなっていないと思いますよ。そこらあたりはどう考えているんですかね。

○契約検査課長（國岡雄幸君） 委員長。

○委員長（田方芳信君） 國岡課長。

○契約検査課長（國岡雄幸君） はい。今、増田委員さんの御指摘、ごもっともな点だと思います。いわゆる行政のほうで恣意的な選定を行っているようになるんじゃないだろうかという御心配でございます。

これにつきましては、まず、国からのですね、指針というのがあります。公共工事の入札及び契約の適正化を図るための措置に関する指針というのがありまして、その中でですね、指名が恣意的に行われないう、指名競争入札を実施する場合には、公正な競争の促進を図る観点から、指名基準を策定し、これに従い、適切に指名を行うと。

また、公共工事の入札及び契約の適正化の推進というのも通達がございまして、この中にはですね、入札及び契約の過程並びに契約の内容の透明性の確保というところで、指名行為に係る発注者の恣意性を、——恣意的に指名するというものを排除し、不正行為を未然に防止する

ためには、指名競争入札における指名基準を策定するということが示されております。

本市につきましては、この指名選定に当たっては、八代市工事請負業者選定要領を設けて、指名及び受注の状況を勘案して、指名が特定の者に偏ることのないようにしなければならないとの指名基準に従いまして、まずは、契約検査課ですね、指名案というものを作成いたしまして、八代市工事入札参加者資格審査委員会に諮り、指名を決定しているという状況でございます。

また、入札及び契約事務の適正を、執行を図るため、いわゆる、恣意的な指名が行われていないかどうかという監視するということですね、八代市の八代市入札監視委員会というのを、——これは第三者機関でございますけれども、設置してございまして、そういう流れのもとにですね、委員会、——そういう組織を通してですね、公正な指名の業者を選定しているということで、これにつきましては、今、指名業者を、以前は事前公表、今度、事後公表になりましたけれども、なりましたけれども、この指名のあり方につきましてはですね、従来どおりで行うということで、そういう選定基準に基づきましてですね、国からの指示が受けた選定基準に基づきまして指名を行っているという状況でございます。

○委員長（田方芳信君） 増田委員。

○委員（増田一喜君） 御説明はごもっともなんですけど、現実的には、ちょっと違うんじゃないかなと思いますよ。だって、入札終わってしまった、決まっちゃってからされたら、あれ、おかしいよ、このやり方って、不服が出てきたって、もう終わりましたからって、もう終わったから、それしよんなかでしょうというふうに言われると、業者さんたちだって、うーんとなると。今度は次の入札があったとしても、ただこの工事名だけぽんと出るとか、そう

なってきたとき、俺、指名されてんだろか、何だろかというのも、——ああ、そうか、自分は指名されてるんですよ。けども、ほかの、例えば、前回とったような人が、また同じグループに入ってきて指名されるようになってくると、やはり業者さん同士じゃ、やっぱり力の関係があるでしょうね、やっぱり資金力とか、そういうので。また来られると、わー、俺、頑張っしょって、それ以上いかれると、私とれないよとか、そういうことも出てくるでしょうしね。

それをできるのは、結局、公表されて初めてなるんだから、それを誰が、なら不服を言うんですかと。後から、その都度その都度、不服を聞くというふうにしてるんですかね。その前にすれば、大体、予算だけ見とって、あれ、これがあるそこに入るのおかしいよ、あれがと言う話が出てくるから、事前にそういうのもキャッチできるでしょうけど、終わってしもうてから不服が来たって、今度はそれどげんか是正しようたって、もうやったことだから、裁判沙汰にでもなっても解決せないけぬちゅう事態が起こり得ますよ。それは、その工事工事のたんびに起こるかもしれないですね、最悪の場合、これは大げさな話かもしれないけど、そういうことにもなりますよ。うん。

だから、やっぱりそういうことも考えれば、どこかは公表せなしょうがないかなと思いますよ。うん。そんなこと考えないんですかね。委員会があるからっていう、それはわかりますけどね、そこで正直にやってもらえれば。（「その前のこつば聞かぬば」と呼ぶ者あり）

○委員（橋本幸一君） よろしいですか。

○委員長（田方芳信君） 橋本委員。

○委員（橋本幸一君） 関連ですが、結局、今、国の通達だから、イコール事後公表というのは、私はそれはどうもおかしいと私は思います。

それと、3つ質問したいんですが、私はです

ね、やっぱり官製談合というのは一つのこれは行政に、今度は市民の信用というのがかかわる問題ですから、大変な大切な問題だと思うし、その中で、内部牽制というのを入札監視委員会だけで果たして見れるかという、その問題ですね。

それと、今、政治倫理がございますね。政治倫理というのは、先ほど、事後公表だったら、もう決まってしまうと、事前に政治倫理にかけられなくなるという、そういう問題が発生するんですね。そこをどう捉えておられるか。

それと、こんな大切な問題をです、4月1日付で施行されてるのに、何で6月かっていう、その辺は説明はちょっとこれは議会軽視じゃないかと私は、何か憤慨してるんですが、それについてどう思いますか。（「そこが一番問題」と呼ぶ者あり）

○委員長（田方芳信君） 國岡課長。

○契約検査課長（國岡雄幸君） はい。まず、1点目、官製談合に関する御質問で、監視委員会のチェック機能が十分働いているのかどうかという疑問があると、それと、いわゆる、議決案件でなる契約の締結であれば、議会の承認が必要と、それ以下であれば、締結になってしまうということでございます。

まずは、（「見ようと思えば見れるからですね。今まではですね」と呼ぶ者あり）はい。今の入札が終わって、落札が終わりました、落札者の決定がございます。落札者の決定が終わって、入札の契約を締結する前に、決済がございますもんですから、その間ですね、余裕の期間とかございますので、もし、ほかの業者さんがですね、情報公開システムを見られて、おかしいということであれば、その時点でですね、意見をいただくということではできるんじゃないだろうかということでございます。

それと……（「だけん、何で今なのかて」「今なのかて。それが一番大事たい」「こんな大切

な問題を」と呼ぶ者あり) 済みません。はい。

実は、これにつきましては、本当におくれまして、大変申しわけないと思っております。

入札制度につきましては、さまざまなものがありまして、法で義務づけられているもの以外の制度につきましてもですね、各自治体の状況に応じまして、導入を検討すべきものが多々あるということをご認識しております。また、どのような入札制度が本市に適しているか、法の要請や本市の発注量とか、経済情勢等に伴いまして変化しておりますので、不断の見直しが必要ということで、事務局内ですら、現状いいかどうかというの見直し作業を行っている過程がございます。

ただ、その決定はですね、固まりましたのが、これはもう、私たちの反省すべきところがございますけれども、ぎりぎりになって固まったという経緯がございます、本来ならば、余裕をもって決定いたしまして、当委員会のほうに報告すべき内容だったかと思えます。

それが、導入をいたしましてですね、今日に至るまで報告がなされなかったということは、私たちはですね、十分反省すべき点でございます、今後はですね、このようなことがないように報告事項につきましてはですね、速やかにですね、報告をしていきたいというふうに考えております。それについては、本当に反省しております。

○委員(橋本幸一君) よろしいですか。

○委員長(田方芳信君) 橋本委員。

○委員(橋本幸一君) 事後公表というやつ、これもまた、非常に私も問題と思うし、先ほどのやっぱり内部牽制とですね、そして政治倫理のその絡み、これはもっともっとやっぱり議論していかなとですね、今、国の通達だから事後公表イコールというのは、非常に私は説明がつかないと思うんですね。

一遍、小会していただいてよろしいですか。

○委員長(田方芳信君) なら、ちょっと小会します。

(午後0時37分 小会)

(午後0時40分 本会)

○委員長(田方芳信君) じゃあ、本会に戻します。

ほかにありませんか。

○委員(大倉裕一君) はい。

○委員長(田方芳信君) 大倉委員。

○委員(大倉裕一君) はい。現場代理人さんの常駐緩和のことで、この現場代理人さんが現場を離れることに対して許可をすることですけれども、そのあたりは法律的には触れるようなことはないのでしょうか。

○委員長(田方芳信君) 西課長補佐。

○契約検査課長補佐(西 竜一君) はい。端的に言いますと、法律に触れるということとはございません。

現場代理人というのは、現場の責任者ということですので、何らか現場で発生したり、人の関係でですね、市のほうから問い合わせがあったりというときに即対応できるような体制をとっていけばいいということですね、今、昔は置き電話しかなかった時代というのがありますので、——あるんですけど、これはそういう国からのですね、文書に書いてあるんですが、携帯電話の普及でですね、連絡が即座にとれるということで、基本的に現場の責任者というのは、もちろん現場では責任とっていただかなくちゃいけないんですけど、そういう連絡を密にとれる、簡単にとれる、すぐ現場に赴くことができるというような状況であれば、現場代理人はそこにですね、常駐をですね、しなくてもいいというのは、法律等で規制されていることではありません。

○委員(大倉裕一君) はい。

○委員長(田方芳信君) 大倉委員。

○委員（大倉裕一君） はい。法律では、そうなっているということですが、万が一、現場事故とかが起きたときということを考えると、やはり現場代理人が常駐していなかったというところに責任が回ってくるのではないかなというふうに私は理解をしますし、そのように考えているところでもあります。

ですから、もし、現場代理人という方が現場を離れるということであれば、代理の現場代理人、——その責任者という方をきちんと指名をしていただいて、行政のほうにそれを認めていく、そういう何か単なる責任を変えるだけじゃないかという話になるかもしれませんが、責任の所在をですね、きちっと、やっぱり現場の中でも体制を整える指導をですね、行政のほうからする必要はあるんじゃないかなというふうに思いますので、そのあたりを、ぜひ、今のままで法律上は問題ないとおっしゃいますけど、何かあったときでは遅いですので、再度いろんな仕事を出される担当部署あたりとですね、検討を積み重ねていただいて、問題の部分をきちっとクリアできるようにですね、お願いしときたいというふうに要望をお願いをしときたいと思います。

○委員長（田方芳信君） ほかにありませんか。

増田委員。

○委員（増田一喜君） ちょっと話があれしましたけど、こっちの、さっきの話なんですけど、公表、非公表の話なんですけどね。先ほどではちょっと時間間に合わないみたいで、ついついになりましたとか、言われたようなんですけども、何で4月1日にせないけぬかと、そんだけ時間が足りなければ、来年にしてもいいわけでしょう。法律で4月1日に、——25年の4月1日に始めなさいちゅうこともないわけでしょう。じゃあ、時間がなかった、6月になるぐらいだったら、来年の4月1日からしますみたい

な話でも済むじゃないですか。そこらあたりも、ちょっとおかしいなと思ったんですけど。

それと、これは、そういうふうに言われて、今後見直すあれはないんですか。もとに戻すとか、そういう考えはないんですか。このまま、しゃんもっでん決めたいけん、行くという方向ですかね。何か知らぬけどね、本当、決めてしもうた、だけんて、——新聞でもそうでしょう、公表しました、だけん、それば、もうのんでくださいというふうにな。事後報告と、そういうふうな形ばかり、ほとんど今とられてきているからですね、非常に不満に思うんですけどね。

そこら辺を加えて、これを見直すちゅうことは考えておられないんですか。

○契約検査課長（國岡雄幸君） はい。

○委員長（田方芳信君） 國岡課長。

○契約検査課長（國岡雄幸君） はい。いろいろ今、委員さんから御指摘いただいたわけでございますけれども、今スタートしたばかりでございますので、これにつきましてはですね、このまま行かせていただきたいと思っております。

それと、なぜ4月1日から導入したかといいますと、電子入札システムの導入に深くかかわりがございます。以前は、——電子入札システムを導入する前はですね、通常の入札をやっております。通常の入札といいますか、まずは、公告をして、指名の場合につきましては、指名業者さんに通知をして、通知を受けた指名業者さんが、市役所の閲覧コーナーに来ていただいて、閲覧をされると。そういうところですね、業者さんたちが、会合されると。それと、入札のときに、必ず参加された業者さんは一堂に会し、来られますので、そのとき合わせる場面がつけられたと。

これが、電子入札になりますと、自分の事務所、もしくは、自宅とか、そういうところですね、気軽に閲覧ができて、——公告の内容の

閲覧ですね、それと、入札もですね、インターネットを通じましてですね、システムに入
て、入札ができるということで、集合してす
ね、業者さんが顔を合わせる機会がなくなった
ということ、こういう環境整備が整ったとい
うことで、これを契機にということで導入した経
緯がございます。

今、言われましたように、猶予期間を設ける
べきじゃなかったんだろうかという御指摘も、
今ございましたけれども、4月からですね、導
入しておりますので、この制度をですね、維持
をしていきたいというふうに考えております。

○委員長（田方芳信君） 橋本委員。

○委員（橋本幸一君） 今の電子入札ですよ。
この件についてはですね、もう早くからちゃん
と説明が私たちにあってとつですよ。恐らく、
事後公表といたら、その後、恐らく、こ
ら、つけ足したと思うんですね。そこが、何で
それだけで今回のスタートはされぬだったか。
また、つけ足しを、いきなり、私たちにも報告
もなしに、——電子入札はもうちゃんと私は聞
いとるから、今のとおり、おっしゃったとお
り、ああ、これは時代の流れかなという、それ
はもう私たちも了解しとったわけですが、後が
もう全然、業者の皆さんも知らぬし、私たちも
全然してないという、その辺にやっぱ何かあっ
たんじゃないかなという不信感がまたちよつと
ですね。

○委員長（田方芳信君） ほかにありません
か。

○委員（増田一喜君） よかですか。

○委員長（田方芳信君） 増田委員。

○委員（増田一喜君） やっぱりね、言われる
ようにね、こっちには後でしか、後出しみたい
にしかしないと。その前にいい意見もあるでし
ょうと、ね。おたくたちみたいに頭のいい人ば
っかりが考えられるんやったら、そら、いいの
かもしれぬ。たまには、こちらのいい意見もあ

るでしょうと。そういうのも取り入れてほしい
なちゅうのもありますけどもね。

それと、もういっちょはですね、うわさがあ
るんですよね。聞いたけれどもね。こうやって
非公表にしますと。ところが、指名された人が
聞きたいと言うたら、聞きに行けば教えてくれ
るよと、そういうことを言われたちゅう方もお
るんですよ。ということは、非公表しながら、
こそっと聞きに行ったら教えてやるよってい
う、そういううわさが出てくるちゅうこと。だ
から、行政に対して非常に不信感があるん
ですよ。あり得ないことでしょう。ところが、それ
ができるんですよ。そんな、まさか、そんなこ
とはないですよと、行政がきちんとやるんだか
ら、ないですって、いや、それを知ってる人が
いましたというふうなことで、そういううわさ
が、結局、飛び交っているような状況があるん
ですよ。

あなた方、それ御存じですか。多分、言われ
ないでしょうね。あなた方の耳にはね。だか
ら、そういう話をすれば、こがん話もちよろっ
て出てきて、ああ、これは大変だって、そうい
うことのないように、今度は所内を引き締めな
いけぬとかいうことにはなるでしょうけど、それ
がなかったらば、なん、絶対なかつたがとい
うような形になる。だから、官製談合なんちゅ
う、そうやって出てくる可能性が十分あるちゅ
うこと。だから、そういううわさも出てくるわ
けでしょう。確認されたらいかがですか、そう
いうのを。どんなですか。

○契約検査課長（國岡雄幸君） はい。

○委員長（田方芳信君） 國岡課長。

それと、先ほど橋本委員の質問に対しての答
弁と両方に対しての答弁をお願いします。

○契約検査課長（國岡雄幸君） 済みません。

○委員（橋本幸一君） 電子入札のあれは、も
う同時じゃなくてから、後からそれはつけ足し
てやったっじゃないですかという。

○契約検査課長（國岡雄幸君） はい。

○委員長（田方芳信君） 國岡課長。

○契約検査課長（國岡雄幸君） 済みません、はい。厳密に言いますと、委員さん御指摘のとおり、電子入札と一体化した制度改正ではございません。電子入札をしたから、必ずそれをしてなければいけないというところのものじゃございません。

ただし、先ほど申しましたように、環境が整ったという点です、こういう制度改正に踏み切ったというのがございます。

済みません。そこは、ぎりぎりです、そういう制度改正をいたしたことにしましては、本当に周知の期間がなかったし、そこは私たちの反省すべき点だと思います。それにしましては、本当に真摯に受けとめまして、こういうことがないようには、心がけなきゃいけないということでございます。

それと、今回、事前公表が事後公表に切りかわったことについて、もし、公表前に、知つとる職員が漏らしたという場合はどうなるかといいますと、地方公務員の守秘義務違反に抵触します。地方公務員法の第34条だ、と思いますけれども。

それとですね、八代市職員の懲戒処分等に関する基準というのが設けておまして、これは、厳密に厳しい場合にしましては、入札談合等に関する行為というのが禁止されとります。それにしましては、当該入札の公平を害すべき行為を行った職員ということで、入札談合等に関する行為で、不正な入札行為に関する行為ということになりますと、厳罰が下されるということで、そういった職員は、免職または停職とするという規定がございまして、そういうことに係ってくる可能性もあります。だから、工事関係者の職員さん、一私たちもそうなんですけれども、全てに、そういうことは対象になりますので、そう

いうことがないようにということで、庁舎内の職員につきましては、通知を出しております。

そういう職員がおったかどうかということにつきましては、私にはなかったということ、今おったということは、今まで耳に聞こえてきませんので、いなかったというお答えしかできないと思います。

○委員長（田方芳信君） ちょっと待って。

今、まだ國岡課長のほうも3月に来たばかりで、そんなには詳しくないと思うんですよ。その中で、今、きょう、木本部長のほうもおられますので、木本部長としては、この件についてどのように判断されますか。

木本部長。

○総務部長（木本博明君） はい。今、「マイク使ってもらっていいですか」と呼ぶ者あり）経緯は國岡課長が申しましたとおりでございまして、ここ数年、入札に関しましては、先ほど申しましたが公平性・透明性、いろんな観点で、数々の改革と申しますか、見直しをやっております。そして、その中に、今回の大きな転換であります入札、――何ですか、電子入札ということがございましたので、それにあわせて、先ほどの説明のように、いろいろこれまでに課題になっていた点を改めて一気にやったということで、たまたま、そのタイミングと説明の時間というのがなかったということは、本当に反省しておりますけれども、そういった経緯でやっております。

かなり、私もびっくりしているように、ここ数年で、かなり見直し、見直しやってきておとす、そこあたりは、私自身もやってるなとは、自分でも思っておりました。

以上でございます。

○委員（増田一喜君） よかですか。

○委員長（田方芳信君） 増田委員。

○委員（増田一喜君） 見直しもやけど、ま

た、課長もね、係長も新しく来ましたって、じゃあ、その新しく来た人がこうやって、こういう計画ちゅうか、こういうのをつくって上に上げていったんですか。それとも、トップダウンなんですか。それが一つですね。

それと、今、見直し、見直しと言うけどね、見直しも、皆さんが、ああ、なるほどいい見直しされましたねって言うんじゃないんだけども、どうも、この数年、ばんばんばん見直し行くけれども、不信感を受けるような、そういう見直しになっていきよるようなのが結構あるんですよ。見直しちゅうのは、やっぱりよくするためでしょう。前のが悪から見直して、もっとよくしましょうやというのがあるはずですよ。それが、こんなやって言われるような見直しの仕方では、ちょっとまずいんじゃないですかね。

それと、新しく来ましたから、来て、そして、やりましたってことなんでしょうけれども、果たしてその相半にこんなことばんばん行けるかなちゅうことですよ。もう既に、そのことはわかっていて、ね、課長たちがそこに配置がえになる前からわかっていて、それがかわった途端にぼんちゅう行って、ほいっと。言わば、私たちからこうやって質問されたりなんかするときに、ろくすっぽ答えられないけど、済みません、出てきました、はい、済みません、そのまま通してくださいと、何かそういう形になっていくような気がして、そこらあたりをちょっと納得できるような説明をいただきたい。

○委員長（田方芳信君） ちょっと。今、増田委員の件について、木本部長。

○総務部長（木本博明君） 今、増田委員からのお話もございましたけれども、決して、國岡課長が今度かわったから云々ということではございません。これまでですね、数年まで、ここ数年間のいろんな課題というのを洗い出して、

一つ一つ解決しながらも、時期を見て、ずっと出してきておりますけれども、今回は、何回も申しますが、たまたまなんです、電子入札ということで、——が大きなちょっと転換期でございましたが、それにあわせて、見直しをずっとあつためていた見直すべき項目もずっとやってきて、今回の4月1日が一つの大きな節目だということでやったんです。やりました。

ただ、そこに年度末もかかりまして、説明の時間というか、場所の設定、そういったタイミングを逸したということで、反省はしております。はい。

以上でございます。

○委員長（田方芳信君） はい。橋本委員。

○委員（橋本幸一君） 私は、増田副議長とは別な意味で、本当、國岡課長は本当、何かちゅうどのときに来られて、とにかく大変な、ですね、内容な答弁にも困られつつと思うんですが、やはりですね、やっぱり業者と行政もですね、ある意味じゃ、やっぱり信頼関係がなからぬといかぬと思うんですね。談合じゃなくてです。今回についてですね、やっぱり私は、非常にやっぱり信頼関係が私はなくなっと思うんですね。それについてですね、されたかもしれぬですが、やっぱりいろんな、これは実践、反省、改革、これは繰り返しと思うんですが、やはりいろんな今回については、問題がやっぱり発生しとると、不信感もあると、そういう中で、やはりそこはまた改めるべきは改めぬといかぬとじゃないかなという、そういう思いも私はしとるわけです。その辺は、十分行政としても、また検討していただいてですね、信頼をまたぴしゃっと回復できるような、お互いのやっぱパートナーでいけるような、そういう方向性を見つけていただきたい。私はお願いいたします。

○委員長（田方芳信君） 要望ちゅうことでよろしいですかね。

○委員（橋本幸一君） 結構です。

○委員長（田方芳信君） はい。ほか。

増田委員。

○委員（増田一喜君） 最後ですけど、今、橋本さんが言われたけど、かわって、私が個人的に課長、係長を責めるちゅうわけじゃないんですけれども、一応、そこらわかっと思っていただきたいと思います。内容として、そういうことを言っただけであって、聞きづらかったかもしれないけれども、それは申しわけないと思っていますので、そこらあたり御理解いただきたいと思います。

○委員長（田方芳信君） ほかにありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（田方芳信君） 以上で入札・契約制度の改正についてを終了します。

当委員会の所管事務調査については、ほかに何かありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（田方芳信君） なければ、以上で所管事務調査2件についての調査を終了します。

○委員長（田方芳信君） 次に、閉会中の継続審査及び調査の件についてお諮りいたします。

所管事務調査2件については、なお審査を要すると思いますので、引き続き閉会中の継続審査の申し出をしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（田方芳信君） 異議なしと認め、そのように決しました。

以上で本日の委員会の日程は全部終了いたしました。

これをもって建設環境委員会を散会いたします。

（午後0時59分 閉会）

八代市議会委員会条例第30条第1項の規定に

より署名する。

平成25年6月18日

建設環境委員会

委員長